

平成28年度(2016年度)

金沢大学



Kanazawa University

入学者選抜に 関する要項

目 次

1	入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）	1
2	募集人員	11
3	入学者選抜方法等	
1	一般入試，専門高校・総合学科卒業生入試	12
2	推薦入試，帰国子女入試，アドミッション・オフィス入試（AO入試）	13
4	一般入試	
1	実施日程	14
2	出願資格	15
3	入学者選抜の実施教科・科目等	16
5	推薦入試	
1	推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない）	25
2	推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）	30
6	帰国子女入試	44
7	アドミッション・オフィス入試（AO入試）	47
8	私費外国人留学生入試	48
9	障がいのある者等の出願	50
10	学生募集要項の請求方法等	
1	学生募集要項の請求方法	50
2	学生募集要項の発表・配付予定時期	51
3	問い合わせ先	52
4	金沢大学所在地略図	53

1 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

《人間社会学域》

【人文学類】

人文学類では、広範な人間の行動・思考・創造と、その蓄積としての思想・歴史・文化、あるいはそれらすべてに関わる言語等を学問的に取り扱い、これら諸学問の専門知識を有し、総合的・学際的視野を持った人材の養成を目指します。

例えば、情報処理能力と柔軟な思考力をもって組織をリードできる人、社会調査・フィールドワークを企画・実施する能力を有する人、外国語コミュニケーション能力を有し国際的に活動できる人など、学術上の基礎訓練を活かし活躍できる人材の養成を目標とします。

なお、一般入試、帰国子女入試、私費外国人留学生入試で入学した人は、2年進級時に、本人の希望、学業成績等を考慮の上、所属するコース・分野を決定します。

求める人材

- ・人間の行動や思想に積極的な関心を持ち、人間探求に挑もうとする人
- ・社会や文化に関する課題を発見し探求する能力を高めた人
- ・個性的な発想や観察眼・思考方法の能力を伸ばしたい人
- ・フィールドワークに興味を持ち、調査方法・情報整理能力を身につけたい人
- ・外国事情に関心を持ち、外国語のコミュニケーション能力を高めた人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では人文学類の基本的科目である国語・外国語能力、後期日程では小論文課題の理解力・論理的思考力・表現力等を重視します。

■推薦入試

【人間科学コース（専門分野：哲学・人間学）】

- ・小論文においては、哲学的・倫理的な問題についての理解力、論理的思考力、表現力を重視します。
- ・面接においては、幅広い教養とともに、哲学的なものの考え方や発想に対する関心を重視します。

【歴史文化学コース（専門分野：日本史学）】

筆記試験では、日本の古代史から近現代史に関する一般的な知識を論理的思考力でもって表現できるかを問う、面接試験では、研究手法を身につけるための意欲と関心を有しているかという観点から選抜します。

【歴史文化学コース（専門分野：東洋史学）】

本学入学後に、東アジア文化圏（漢字文化圏）における諸事象を総合的・多面的に理解し、そのうえで、歴史資料を駆使しながらその歴史を論理的に描くことができるかどうかをみるため、小論文では、課題に関連する文

章や資料、並びにアジアを中心とした世界の歴史についての理解力・論理的思考力・表現力等（それらの前提となる基礎知識を含む）を、また面接では、平素の学習活動の成果、勉学意欲や当該専門分野で学習を進めるのに必要な資質等を、総合的に評価します。

【歴史文化学コース（専門分野：西洋史学）】

課題に対する理解力・論理的思考力・表現力等を評価するとともに、面接により、歴史を研究することへの情熱、および特定の時代・テーマに関して今後深く掘り下げて考察しうる可能性を有しているかという観点から選抜します。

【言語文化学コース（専門分野：中国語学中国文学）】

小論文を通じて、外国語読解力、思考力、表現力、創造性及び言葉に対する感性を測ります。また面接では、入学後の学習意欲とともに、中国の言葉、文学、歴史及び現代中国の文化と社会に対する知識、関心度なども重視します。

■帰国子女入試

人文学類の基本的科目である国語・外国語能力を重視するとともに、面接により、高校時代の日本内外における体験、大学入学後の計画、大学の授業を理解するための基礎知識を評価します。

■私費外国人留学生入試

日本語の読解・筆記能力を重視するとともに、英語能力も確認します。また面接により、大学入学後の計画、大学の授業を理解するための基礎知識、日本語によるコミュニケーション能力などを評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

人文学類で学び、探求する事柄は、人間に関する様々な事象が対象となりますので、高等学校等で学ぶ教科全般について基礎的な知識と理解力・思考力を身につけておくことが望まれます。

【法学類】

法学類は本学独自の「学類」という名称を冠していますが、学べる内容は他大学の法学部と同じです。起源は1949年に創設された法文学部法学科であり、1980年には法学部へ改組し、2008年には現在の法学類となりました。この間、国内外の社会状況は大きく変化し、また、今後も常に変化しつづけることが予想される中で、個々人が他者と共生していくために必要である法と政治に関する基本的な理念や知識は昔も今も不変であり、そして将来も不変でありつづけることでしょう。このような認識の下、法学類では、法学・政治学を体系的に学ぶことを基本としつつ、さらに、現代社会の課題を発見し解決するためには欠かすことのできない、他者に対する共感力と、問題解決のための創造力を養うことを目標としています。

法学類生の主要な進路は官公署・企業・大学院です。そのため、法学類では、希望進路に対応する、公共法政策・企業関係法・総合法学という3つのコースを設けています。各コースへの所属は3年進級時に決定します。その際、総合法学コースを志望するためには、2年前期までの成績が一定基準以上であることを条件とし、さらに志望者多数の場合は面接等に基づく選考を行います。他の2コースは希望通りの所属となります。

求める人材（法学類共通）

- ・大学での法学・政治学の学習に必要な基礎的知識を備えている人
- ・国内外の社会問題に関心を持ち、よりよい社会の実現のために貢献したいと願っている人
- ・論理的思考や情報分析を通じて、また、過去の歴史的経緯をふまえつつ、社会現象の本質を探究したいという意欲のある人

求める人材（推薦入試）

- ・コミュニケーション能力（とくに、人の話を正確に理解し、自分の意見を論理的に述べる能力）が優れている人
- ・課題や仕事に率先して取り組む意欲や責任感のある人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では外国語と国語あるいは数学の能力、後期日程では小論文課題の理解力・分析力・表現力等を重視します。

■推薦入試

基礎学力に加え、面接を通じて、日頃から社会問題に対する関心を有しているか、大学での法学・政治学の学習に必要な基礎的知識を備えているか、他者の考えを正確に理解し自分の意見を論理的に述べるコミュニケーション能力があるか、自主的・主体的に課題に取り組む意欲はあるかなどを総合的に評価します。

■帰国子女入試

国語能力に加え、面接を通じて、大学での法学・政治学の学習に必要な基礎的知識を備えているか、他者の考えを理解し自分の意見を論理的に表現する能力はあるか、日頃から社会問題に対する関心を有しているか、などを総合的に評価します。

■私費外国人留学生入試

日本語能力及び英語能力に加え、日本語による面接を通じて、大学での法学・政治学の学習に必要な基礎的知識を備えているか、他者の考えを理解し自分の意見を論理的に表現する能力はあるか、日頃から社会問題に対する関心を有しているか、などを総合的に評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

- ・高等学校で履修した様々な科目の内容について理解していること
- ・法律や裁判例の読解、政治的問題の把握、これらに基づく私見の提示・論述、に必要な国語力を十分に修得していること
- ・社会的・国際的諸問題の本質を探究し、その解決を図るために必要な社会科目や外国語科目の学力を十分に修得

していること

【経済学類】

経済学類では、現代社会において国、国の中の地域、国を越えた各地域で起きている様々な問題に、①経済理論に基づく解釈と政策的解決策の検討、②経営・会計・情報の観点からの企業活動の分析、③世界各地の経済と社会の比較考察という三つの経済学的アプローチから迫ります。そのためには経済学を体系だって学ぶことと同時に、その一部を深く専門的に学ぶことが必要であり、経済学類は、そのどちらも満たすカリキュラムを提供することによって、現代の様々な問題に的確かつ迅速に対処することができる専門的知識を持った人材の養成を目標とします。

経済学類では、多様な社会的課題に対応できる人材の育成を目指し、一般入試に加えて高校の専門教育を主とする学科又はそれと同等な総合学科からの進学希望者を対象とする推薦入試を設けています。経済分野に対する興味・関心と、勉学に対する強い意欲を持ち、基礎的資質に優れた人材を求めます。

経済学類には、経済理論・経済政策コース、経営・情報コース、比較社会経済コースがあります。各コースへの所属は、3年進級時に本人の希望、適性、成績等を考慮の上決定します。

求める人材（経済学類共通）

- ・経済理論を基礎としながら、現代社会の諸問題の分析と解決に挑みたい人
- ・国や地域社会の仕事に携わるために必要な専門的知識を身に付けたい人
- ・即戦力として、あるいは起業家として、ビジネス界で活躍したいと考えている人
- ・日々の国際的な出来事や企業の動きに鋭敏にアンテナを張り巡らせている人

求める人材（推薦入試）

- ・高等学校で修得した専門教育の知識を踏まえ、より深い経済学・経営学の専門的知識を得たい人
- ・経済学・経営学に関する体系的知識を学び、問題解決能力を身につけたい人
- ・国際社会やビジネスに関心を持ち、将来、これらのフィールドで活躍したい人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では国語・外国語・数学の能力、後期日程では小論文課題の理解力・表現力等と英語力を重視します。

■推薦入試

現代の文化・社会・経済に関する日本語及び英語の文章を理解する能力、論理的思考力、表現力に加え、平素の学習活動や大学入学後の計画等を重視します。

■帰国子女入試

現代の文化・社会・経済に関する日本語及び英語の文章を理解する能力、論理的思考力、表現力に加え、高校時代における体験や大学入学後の計画等を重視します。

■私費外国人留学生入試

日本語の文章に関する理解力、論理的思考力、表現力に加え、大学入学後の計画、大学の授業を理解するための基礎的知識等を重視します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

地域においても、国際的な分野においても、人間社会で活躍するためには、国語・英語および情報処理の基本的な力は不可欠です。また経済学類では、特に数学の知識を前提にした授業を履修することも求められます。さらに現代社会の経済およびそこの日本の位置づけを理解するためには、その前提として地理歴史・公民の知識が必要となります。現代の環境や技術革新の問題を学ぶためには、これと密接に結びついた科学技術の知識が必要であり、理科を学んでおくことも望まれます。

【学校教育学類】

「空洞化」した学びを立て直していくには、教師に教科等に関する専門的な知識や技能及びそれらを教授する能力に加え、グローバルな視野に立って考え行動する市民的教養と行動力が求められます。また、様々なトラブルをかかえた子どもたちと向き合うためには、子どもたちに共感し、子どもたちの世界を読み開く能力も求められます。学校教育学類は、こうした力量を持った義務教育段階の諸学校の教師を組織的、計画的に養成することを主たる目標にしており、専門職としての教師への熱意にあふれた人材を求めます。

学校教育学類には、教育科学コースと教科教育学コースのもと、教育基礎、特別支援教育、国語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、音楽教育、美術教育、保健体育、家政教育、英語教育の11の専修があります。各専修への所属は2年進級時に、本人の希望、適性等を総合的に考慮したうえで決定します。

求める人材

- ・専門職としての教師への熱意が旺盛である人
- ・社会、自然、人間、文化、教育について深い関心を持っている人
- ・自分の見解を表明できると同時に、他者の見解や感情を理解することができる人
- ・人類的課題に地域や学校で取り組んでみたい人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、英語、そして国語・数学・理科から1教科を課して学力を多面的に評価します。

■推薦入試

【特別支援教育専修】

課題に対する思考能力と論述能力、勉学意欲や資質等を総合的に評価します。

【美術教育専修】

形体に対する表現力、課題に対する思考能力と論述能力、基礎知識・論理的思考能力及び勉学意欲や資質並びに提出作品等から総合的に評価します。

【国語教育専修】

基礎学力及び勉学意欲・教職への意欲・資質・適性等

を総合的に評価します。

【社会科教育専修】

基礎学力及び思考力・文章力・表現力を総合的に評価します。

【数学教育専修】

基礎学力及び勉学意欲や資質等を総合的に評価します。

【理科教育専修】

基礎学力及び教員になりたいという目的と意欲、自然科学・理科教育・環境教育への関心をはじめとする総合的な学力等を評価します。

【音楽教育専修】

基礎学力及び演奏技術、表現力、ソルフェージュ能力、楽典の基礎的知識、志望動機、教職及び音楽に対する熱意と抱負等を評価します。

【保健体育専修】

基礎学力及び高校時代のスポーツ活動実績、教育や体育・スポーツに関わる勉学意欲と資質、大学入学後の計画等を総合的に評価します。

【家政教育専修】

基礎学力及び家政教育に対する勉学意欲や資質等を総合的に評価します。

【英語教育専修】

基礎学力及び論理的思考と英語力、勉学及び教員になることへの意欲、そしてコミュニケーション力を総合的に評価します。

■私費外国人留学生入試

基礎学力及び本学類としての適格性を評価します。(なお、本学類は日本における義務教育段階の諸学校の教師を養成することを主たる目的としています。)

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

本学類では、小学校一種免許状と、中学校一種免許状あるいは特別支援学校教諭一種免許状の取得に必要な科目の履修が卒業要件となっていることから、次の三点が望まれます。

- ・小学校の全教科を含む、学校教育の全般についての基礎的な知識や技術を身につけておくこと
- ・大学で専門とする予定の分野に関する興味・関心を深めておくこと
- ・これまでの学校経験を省察するなどして、学校や教師のあり方について自分なりの考えを持っておくこと

【地域創造学類】

地域創造学類は、それぞれの地域が持つ自然的・文化的資源、伝統、人材、資金社会関係などを総合的に活用し、自治を活かした地域固有のスタイルで住民の福祉・文化・産業・環境を発展させ、質の高い個性ある地域生活を計画・設計・政策立案し、地域づくりのリーダーとして活動できる能力を持つ人材を育てることを教育理念・目標としています。

地域創造学類には福祉マネジメント、環境共生、地域プランニング、健康スポーツの4つのコースがあります。各コースへの配属は、推薦入試以外の学生については、2年進級時に本人の希望、適性、学業成績等を考慮のうえ決定します。

求める人材

- ・地域の歴史・文化・環境・経済・生活に積極的な関心を持っている人
- ・個性ある地域を創造していくことに強い意欲を持っている人
- ・地域との具体的な関わりの中で、福祉・環境・文化・健康スポーツを中心に学びたい人
- ・地域における豊かな暮らしの創出に取り組み、グローバルな共生社会の発展に寄与しようとする人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では文系・理系科目両面の基本的科目である国語・数学・外国語から2科目を選択し、後期日程では小論文課題から理解力・論理的思考力・表現力等を重視します。

■推薦入試

福祉マネジメント・環境共生両コースでは、小論文課題から、各専門分野に関わる課題に対する理解力・論理的思考力・表現力等を評価し、面接により大学入学後の計画、授業を理解するための基礎知識、大学での経験を踏まえた将来の希望等をあわせた総合的な評価をします。

地域プランニングコースでは、基礎学力に加え、面接により大学入学後の計画、授業を理解するための基礎知識、大学での経験を踏まえた将来の希望等をあわせた総合的な評価をします。

健康スポーツコースでは、基礎学力に加え、スポーツ活動に関する調査書及び面接により、大学入学後の計画、授業を理解するための基礎知識、大学での経験を踏まえた将来の希望等をあわせた総合的な評価をします。

■帰国子女入試

小論文課題から、地域創造に関わる課題に対する理解力・論理的思考力・表現力等を評価し、調査書及び面接により、大学入学後の計画、授業を理解するための基礎知識、大学での経験を踏まえた将来の希望等をあわせた総合的な評価をします。

■私費外国人留学生入試

小論文課題を論述することにより、基礎的知識・思考能力・論述能力等を総合的に評価します。面接では、多面的な質問をおこない、勉強意欲や地域創造学類への的確性を総合的に評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

地域創造学類では、福祉、環境、地域プランニング、健康スポーツの側面から、総合的に地域について学ぶことから、文系・理系科目両面にわたり、高等学校で学ぶ教科全般について理解しておくことが求められます。

地域創造学類は、地域の問題を調査・分析し、政策立案できる能力の修得を目指しています。その前提として、地域社会に対して強い関心を持ち、自ら主体的に情報を集め、自分なりの考えをまとめられるようにしておくことが望まれます。

【国際学類】

国際学類は、実践的な英語などの語学力を活用して、将来、外務・対外援助機関や国際機関で働きたい人、海外のNPO、NGOで経験を積みたい人、多国籍企業で力を試したい人、外国人に日本語・日本事情を教えたい人、国内での国際交流活動に携わりたい人などに必要な、多民族・多宗教・多文化共生社会を生き抜く強靱な知性と深い共感性、外国語をはじめとする国際コミュニケーション能力、具体的な問題提起と解決立案を行うセンスを養うことを教育目標とします。

国際学類には国際社会、日本・日本語教育、アジア、米英、ヨーロッパの5つのコースがあります。各コースへの所属は2年進級時に本人の希望、適性、学業成績等を考慮のうえ決定します。

求める人材

- ・多文化や多民族、及び国際社会における諸問題に積極的な興味を持つ人
- ・自国文化のアイデンティティを常に問い続ける、探究心あふれる人
- ・英語や国際的に重要な他の外国語の実践的な運用能力を高めるために、努力を惜しまない人
- ・探究心とコミュニケーション能力を用いて、外国人と諸問題を粘り強く話し合い、相互理解と交渉妥結に達しようとする人
- ・将来の人生設計において、外国地域への進出など国際的な活動への従事を目指す人。外国人に対する日本語教師を目指す人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では国語・英語の学力、後期日程では英語を含む小論文課題の読解力・分析力・思考力・表現力等を重視します。

■推薦入試

第1次選考では、外部試験（TOEFL、TOEIC、英語検定、国連英語検定、ケンブリッジ英語検定、IELTSのいずれか）のスコア及び調査書、推薦書、志願理由書の書類を総合的に審査します。第2次選考では面接を行います。面接では、論理的な思考や国際コミュニケーション能力、国際問題への関心などを中心に総合的に判定します。なお、調査書は面接の際の参考とします。

■帰国子女入試

第1次選考では、外部試験（TOEFL、TOEIC、英語検定、国連英語検定、ケンブリッジ英語検定、IELTSのいずれか）のスコア及び調査書、推薦書、志願理由書の書類を総合的に審査します。第2次選考では面接を行います。面接では、論理的な思考や国際コミュニケーション能力、国際問題への関心などを中心に総合的に判定します。なお、調査書は面接の際の参考とします。

■私費外国人留学生入試

英語及び日本語の文章を読ませ、それに関する問いに日本語で答えさせます。これによって、英語の知識とともに、社会・文化についての知識や論理的思考力及び日本語能力を総合的に評価します。また、面接では、基礎

知識や日本語によるコミュニケーション能力、勉学意欲を十分に有しているかを重視します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

国際学類ではグローバル化する世界を多様な観点から理解し、異文化との〈しなやかな共生〉を実現することのできる国際人を送り出すことを目指しています。この目標の実現のために高校在学中に「英語」や「政治・経済」、「世界史」、「地理」などの学習に積極的に取り組み、これらの教科の知識を十分に獲得した数多くの学生が本学類を受験してくれることを期待します。また真の国際人として活躍できるよう、自国の歴史・文化についての教養も不可欠です。そこで受験生のみなさんには、日本理解の基礎として「日本語」(国語)及び「日本史」の学習を強く推奨します。「日本語」により読み・書き・話すことの能力は、大学で高度な知的訓練を受けるにあたり絶対必要な条件です。また国内外において外国の人々と、積極的にコミュニケーションする意欲をもつことが望まれます。もちろん入学後の研究主題によっては、これらに加えて「倫理」など様々な教科を学ぶ必要もあるでしょう。

《理工学域》

【数物科学類】

数学、物理学は長い歴史をもつ学問として、互いに大きな影響を与え合いながら発展してきました。今日ではまた、計算機シミュレーションという新しい研究手段の導入によって、これまで困難とされていた複雑な数理や自然現象の理解に大きな進展がもたらされています。それらは自然科学をはじめとする現代のあらゆる科学の基礎を支えていると言っても過言ではありません。数物科学類では、このように21世紀の科学として発展を遂げつつある新しい数学、物理学、計算科学を学ぶことを通じて、国際社会の発展に寄与できる人材を育成します。

1年次では学類共通で基礎的科目を学び、2年進級時に本人の希望にもとづき、数学、物理学、計算科学の3つのコースのいずれかを選択し、より専門的な内容の学習へと進みます。

求める人材

- ・数学や物理学に興味をもち、それに取り組む熱意と探究心をもっている人
- ・計算機シミュレーション及びそれをういた科学研究に興味のある人
- ・将来、数学、物理学、計算科学及びそれらの関連分野の研究や教育に携わりたい人
- ・基礎科学をじっくりと学び、それを国際社会の発展に活かしたいと考えている人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では数物科学類にとっての基本的科目である数学・理科及び英語の学力、後期日程では数学・物理の学力を重視します。

■帰国子女入試

基礎学力に加え、数物科学類にとっての基本的科目である数学の学力を重視するとともに、面接により理解度、勉学意欲、基本的知識等を総合的に評価します。

■私費外国人留学生入試

基礎学力に加え、数物科学類にとっての基本的科目である数学・物理の学力及び日本語・英語の語学力を重視するとともに、面接により日本語能力、勉学意欲、資質を総合的に評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校等の課程において、5教科7科目(数学、理科、外国語、国語、地理歴史・公民)又はそれに相当する科目を学び、そこで学習したことを十分に身に付けておくことが必要です。

【物質化学類】

化学は自然界で起こる様々な現象の原子・分子レベルでの理解から、21世紀に必要とされる環境に適合した新しい機能性物質の創製、さらに日常生活を支える様々な化学製品の開発と製造過程に至るまでの幅広い領域を含んでいます。物質化学類では、化学を通じて人類が自然と共生しながら持続的に豊かに生きるための科学・科学技術・文化の発展と充実に貢献し、世界のグローバル化を積極的に担える人材の育成を目標としており、“独自に考える力”と“未知の分野に対する強い探究心とチャレンジ精神”の旺盛な人の入学を期待します。

物質化学類には化学と応用化学の2つのコースがあります。

各コースへの所属は2年進級時に本人の希望、学業成績等を考慮のうえ決定します。

求める人材

- ・自然現象の観察と実験に強い興味を持ち、実験を通して創造的に自然に関わりたい人
- ・独自に考える力と自然に対する好奇心を持ち、発見の感動を味わいたい人
- ・研究を通して得た成果を世界に向けて発信し、社会や自然界へ応用することに意欲がある人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では物質化学にとっての基本的科目である数学・化学及び英語の学力、後期日程では化学の知識・理解度を重視します。

■帰国子女入試

物質化学にとっての基本的科目である数学・化学及び英語の学力を重視するとともに、成績証明書(調査書)により基礎学力を評価します。

■私費外国人留学生入試

数学・化学及び英語の学力を重視するとともに、面接により、大学の授業を理解するための基礎知識、日本語によるコミュニケーション能力などを評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校で履修した科目(大学入試センター試験で課し

ている科目)について十分に理解できていることが必要です。

さらに、化学を含む理系科目(理科、数学)は理学・工学の基礎となる科目ですので非常に重要です。文系科目(国語、外国語、社会系科目(地歴・公民))も自分の意見をまとめコミュニケーションを行うために必要です。また、高校生活の中で、日常的な科学現象に興味を持ち、それらを意欲的に探究する姿勢を身につけてください。

【機械工学類】

本学類では、自己を知り自己の人間力や表現力を高めた上で、技術革新の基盤となる機械工学の技術者・研究者として、モノづくり工学の社会的使命と責任を果たし、中核的なリーダーとして国際的に広く活躍する人材を育成します。そのために、技術の革新的な進歩に貢献する能力と、技術と人間社会との調和を図る素養の修得を目的とした、工学のみならず、数学・物理学の基礎から、機械工学の先端的な分野、技術をとりにくく社会・環境に関する分野までの研究・教育を行います。本学類は、機械の高度化、知能化、超精密化を目指す、ロボティクス、航空宇宙工学、ナノテクノロジーなどの未知の領域に挑む先進的な機械工学分野や、医療福祉機器、生活支援機器、新エネルギーの開発や環境保全を目指す、人と自然に優しい機械工学分野に興味がある人材の入学を期待します。

機械工学類には機械システム、知能機械、人間機械及びエネルギー環境の4つのコースがあります。各コースへの所属は2年進級時に本人の希望、学業成績等を考慮のうえ決定します。

求める人材

- ・先端機械工学への興味、モノづくりへの熱意、人間支援に対する高い志を持つ人
- ・地球環境への関心が高くグローバルな視野と外国語能力の向上に意欲を持つ人
- ・独創性と創造性が豊かで自ら問題点を解決する意欲を持つ人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では、機械工学にとっての基礎となる数学・物理・英語の学力、後期日程では、数学・物理の学力を重視します。

■帰国子女入試

機械工学にとっての基礎となる数学・物理・英語の学力を重視するとともに、成績証明書(調査書)により基礎学力を評価します。

■私費外国人留学生入試

日本語の読解・筆記能力、機械工学にとっての基礎となる数学・物理・化学・英語の学力を重視するとともに、面接により、日本語能力、理工学分野の勉学意欲及び資質を評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

大学入試センター試験で課している科目(理系科目及び文系科目)および一般入試の個別学力検査で課している科目(数学・理科・英語)について、十分理解しておくこと

が必要です。また、身の回りの“モノづくり”の仕組みから日常的な科学現象まで、幅広い興味と探究心を持つことが望まれます。

【電子情報学類】

電子情報学類が対象とする分野は、大小様々な機器の動作に不可欠なエネルギー・制御・半導体・集積回路技術、情報産業のインフラであるコンピュータ・通信技術、バイオと情報通信技術(ICT)の融合した生命情報からなり、相互に強く関連しながら発展している分野です。電子情報学類では、地球的視点や技術者としての鋭い倫理観を持ちながら、当該分野における未来の課題に取り組む強い意欲と能力を有し、個性の輝く自立した電気・電子・情報・通信・生命情報工学技術者の養成を目標としています。

電子情報学類には電気電子、情報システム及び生命情報の3つのコースがあります。各コースへの所属は2年進級時に本人の希望、学業成績等を考慮のうえ決定します。

求める人材

- ・数学が得意な人、積極的に物理学、数学、生物学の応用に取組みたい人
- ・科学実験やコンピュータに関心があり、科学技術の未来の課題を見つけて創意工夫をしたい人
- ・コンピュータのハードウェア・ソフトウェアを学び、高度情報化社会に貢献したい人
- ・エネルギー、エレクトロニクス、通信、ICT技術を身につけて国内外の幅広い分野で活躍したい人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では電子情報分野の基本的科目である数学・物理及び英語の学力、後期日程では数学の理解度・数学的思考及び表現力を重視します。

■帰国子女入試

電子情報分野の基本的科目である数学・物理及び英語の学力を重視します。

■私費外国人留学生入試

日本語の聴解・読解力に加え、電子情報分野の基本的科目である数学・物理・化学及び英語の学力を重視するとともに、面接により、日本語によるコミュニケーション能力、理工学分野の勉学意欲及び資質を評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

大学入試センター試験で課している科目においては、理数系科目及び文系科目ともに重要です。きちんと習得してください。また、一般入試の個別学力検査で課している科目(数学、物理、英語)については、入学後の本学類における授業及び研究の基礎として非常に大切ですので、しっかりと学び、身につけておいてください。

【環境デザイン学類】

私たちの生活には、地球環境から生活環境までの安全・安心な環境や豊かな暮らしを支える道路・橋梁・堤防などの社会基盤が不可欠です。環境デザイン学類では、地球環境だけでなく、生活環境や社会基盤の整備などを含めた広い意味で

(私たちの暮らしのための)「環境」というものを捉え、「環境」について総合的・実践的に教育・研究を行います。

環境デザイン学類には土木建設、環境・防災及び都市デザインの3つのコースがあります。各コースへの所属は3年進級時に本人の希望、学業成績等を考慮のうえ決定します。

求める人材

求める人材は、地球環境から生活環境までの様々な自然・人間・社会環境に対する調査や分析と共に、それらに配慮した国土創造、安全・安心な社会基盤や都市のデザインに興味があり、かつ、次のような特性を有する、意欲ある人です。

- ・理数系科目はもとより、人文社会系科目にも興味のある、オールラウンドな実力のある人
- ・地域貢献や社会正義について大いに関心のある人
- ・環境問題をはじめとする社会の動きにいつも関心のある人
- ・創意工夫をすることの好きな人
- ・自分の考えを相手にわかりやすく表現できる人
- ・現在と未来の課題解決に対して積極的に取り組む人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程では本学類にとって基本的科目である数学、理科及び英語の学力、後期日程での面接試問では表現力、勉学意欲、適性等を重視します。

■帰国子女入試

本学類にとって基本的科目である数学、理科及び英語の学力を評価します。

■私費外国人留学生入試

英語の学力に加えて、日本語の読解・筆記能力、基礎学力を重視するとともに、面接により、勉学意欲、日本語によるコミュニケーション能力等を評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校で履修した科目(大学入試センター試験で課している科目)について、しっかり理解しておくこと。本学類の科目を着実に習得するには、特に数学、物理、化学及び英語について十分な学習が望まれます。また、総合的な学力を身に付けるために、理系のみならず、人文社会系科目の学習も勧めます。

【自然システム学類】

自然システム学類では、金沢大学〈グローバル〉スタンダードに基づきグローバル社会をリードする人材育成のため、生物・人間・物質・地球で形成されるシステムを自然システムとして捉え、理学と工学の両面から柔軟に思考できる能力を身につける教育を行い、生物学、バイオ工学、物質工学、環境科学、地球科学の総合的観点から、このシステムの基本を迫る研究者、その成果を人々の豊かな生活の実現に応用できる技術者、これらの知識の普及や人材育成に貢献できる教育者を養成します。自然システム学類では、科学的探究心に富み、これらの分野の専門知識を生かして活躍したいと考えている学習意欲のある人の入学を期待します。

自然システム学類には生物学、バイオ工学、物質循環工学及び地球学の4つのコースがあります。各コースへの所属は

2年進級時に本人の希望、学業成績等を考慮のうえ決定します。

求める人材

- ・自然現象に対して興味を持ち、理科系科目が得意で、実験や野外調査が好きな人
- ・生物学、バイオ工学、物質工学、環境科学、地球科学の分野で専門家や教育者の道に進みたい人
- ・理学と工学の基礎知識を備えて、グローバル社会をリードし、生命・バイオ・材料・環境分野で活躍したい人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、自然システム学類の基本的科目である数学、理科、外国語(特に英語)の学力を評価します。これらに加え、前期日程では国語や地歴・公民を含む幅広い能力、後期日程では勉学意欲及び科学や技術に対する理解力、論理的思考力、表現力等を重視します。

■推薦入試

小論文、面接の結果及び調査書、推薦書、志願理由書等提出された書類により総合して行います。小論文では、科学や技術に関する文章を読み解き、理解力、論理的思考力、表現力、英語力等を総合的に評価します。また、面接では、科学や技術に対する勉学意欲及び理解力等を評価します。

■帰国子女入試

基礎学力に加え、数学、理科、英語の学力を評価します。加えて、成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して評価します。

■私費外国人留学生入試

数学、理科、英語の学力を評価します。日本語の読解・筆記能力も重視します。面接では、大学の授業を理解するための基礎知識や勉学意欲、日本語によるコミュニケーション能力などを評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校で履修した科目(大学入試センターで課している科目を含む)について、しっかりと身につけておくこと。自然システム学類の基本的科目である数学、理科、英語については、応用能力を含めとくにしっかりと身につけておくこと。また、自然科学全般に広く興味を持って勉強しておくこと。

《医薬保健学域》

【医学類】

医学類は、従来の医学部医学科に相当し、卒業者には医師国家試験の受験資格が与えられ、合格することによって医師として登録されます。医学類の教育理念は、「人間性を重視し、かつ高度で総合的な能力を有する医療人・医学者の育成を図ることにより、世界の医療、健康、福祉に貢献する」ことです。そのために、「幅広い教養、豊かな感性と人間性への深い洞察力を持ち、コミュニケーション能力及び国際性を備え、患者中心の全人的医療ができる医師と医学者」を育てることを教育目標とします。また、社会の多様かつ高度な医療ニ-

ズに添えていくために「明確な目的意識、強い使命感、高い倫理観と協調性」を備えた人材を求めます。

求める人材

- ・高度専門職業人として、研究心を持った医師を目指す人
- ・地域の医療に貢献する医師を目指す人
- ・国際的に活躍できる医学研究者を目指す人
- ・厚生医官、法務医官、自治体、保健所など医療行政の分野で活躍したい人
- ・世界保健機構などで医学医療の分野で国際貢献したい人
- ・医薬開発、医療器械開発、バイオ技術開発などのビジネス領域で活躍したい人

選抜の基本方針

■一般入試

高等学校教育で求められるすべての科目における基礎知識・技能に加え、医学にとって基本的科目である数学・物理・化学・英語の学力、そして面接においては勉学意欲・コミュニケーション能力・資質・向上心等を重視します。

■推薦入試

生命科学と人類の幸福に高い志を持ち、出身高等学校長等による責任ある推薦を受けた者を対象とします。特に、推薦入試の特別枠は、将来、石川県並びに富山県の地域医療をリードする指導的人材の育成を目的としており、石川県又は富山県の地域医療に貢献する強い意志を持った者を対象とします。

■帰国子女入試

日本の高等学校教育で求められるすべての科目における基礎知識・技能と相当のものを習得していることに加え、医学にとって基本的科目である数学・物理・化学・英語に関して十分な学力をもったものを対象とします。面接においては勉学意欲・コミュニケーション能力・資質・向上心等を重視します。

■私費外国人留学生入試

医学を学ぶのに必要な日本語の読解・筆記能力を有しているとともに、医学にとって基本的科目である数学・物理・化学・英語に関して十分な学力をもったものを対象とします。面接においては勉学意欲・コミュニケーション能力・資質・向上心等を重視します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校等で学ぶ教科全般について基礎的な知識と理解力・思考力を身につけておくことが望まれます。

【薬学類】

薬学が人間の生命に関わる学問であることを踏まえ、豊かな人間性・高い倫理観、幅広い教養を身につけた主導的な薬剤師の養成を図ります。また、薬剤師資格を有した上で高度に専門的な教育者や研究者を目指し、卒業後、博士課程（4年制）に進学する人を歓迎します。

本学においては薬学類・創薬科学類を一括して学生募集を行い、共通する基礎・専門科目や早期体験等の初期学習を経た後、学生自らが自己の適性を判断しながら進路を決定する経過選択制を導入しています。

求める人材（薬学類共通）

- ・チーム医療の一員として薬を用いた医療に主導的に関わる薬剤師を目指す人
- ・生命薬学の領域において国内外で活躍する研究者を目指す人

求める人材（アドミッション・オフィス入試）

- ・化学を基礎として医療や生命科学に関連する領域を深く、主体的に学ぶことに意欲的な人

選抜の基本方針

■一般入試

高等学校での高いレベルの基礎学力と、特に理数科目での秀でた学力を身につけた人材を選抜します。

■帰国子女入試

授業を理解するための高い学力を個別試験により、素質・適性・学力を面接により評価します。

■アドミッション・オフィス入試

物事の本質を理解し、自ら問題を見出して知識・技能を総合的に活用・解決しようとする能力や適性、学習意欲及び目的意識等を総合的に判定します。

■私費外国人留学生入試

授業を理解するための高い学力を個別試験により、素質・適性・学力ならびに日本語能力を面接により評価します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校で履修する科目（大学入試センター試験で課している科目）について、しっかり理解することが求められます。特に、理数科目の高い基礎学力と理解力が必須です。

【創薬科学類】

人類の健康増進や医薬品の創製につながる先端的な研究・応用研究分野で活躍する高度で専門的な知識と技能を身につけた多様な人材の養成を図ります。とりわけ研究者を養成することを主目的としますので、卒業後は、大学院博士前期課程（2年間）、さらには博士後期課程（3年間）へと進学する人を歓迎します。

本学においては薬学類・創薬科学類を一括して学生募集を行い、共通する基礎・専門科目や早期体験等の初期学習を経た後、学生自らが自己の適性を判断しながら進路を決定する経過選択制を導入しています。

求める人材（創薬科学類共通）

- ・人類の健康増進や医薬品の創製を通じて社会に貢献することを希望する人
- ・生命科学の領域において国内外で活躍する研究者を目指す人

求める人材（アドミッション・オフィス入試）

- ・化学を基礎として医療や生命科学に関連する領域を深く、主体的に学ぶことに意欲的な人

選抜の基本方針

■一般入試

高等学校での高いレベルの基礎学力と、特に理数科目での秀でた学力を身につけた人材を選抜します。

■帰国子女入試

授業を理解するための高い学力を個別試験により、
素質・適性・学力を面接により評価します。

■アドミッション・オフィス入試

物事の本質を理解し、自ら問題を見出して知識・技能
を総合的に活用・解決しようとする能力や適性、学習意
欲及び目的意識等を総合的に判定します。

■私費外国人留学生入試

授業を理解するための高い学力を個別試験により、素
質・適性・学力ならびに日本語能力を面接により評価し
ます。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

高等学校で履修する科目（大学入試センター試験で課し
ている科目）について、しっかり理解することが求められ
ます。特に、理数科目の高い基礎学力と理解力が必須です。

【保健学類】

保健学類は、「保健・医療・福祉における科学的な知識・
理論・技術の修得と課題探究能力を養成し、豊かな教養と人
間性を備えた高度専門医療人と保健学研究者を育成し、国民
の医療・福祉の発展に寄与すること」を基本理念とします。
教育目標は、1) 現代社会の抱える諸問題を総合的に洞察で
きる能力の育成、2) 日本語・外国語による討議・発表能力
の育成、3) 保健学における基礎的知識と専門的知識・技術
の修得、4) 保健学の知識・技術を活用した課題探究能力の
育成、5) 豊かな人間性と高い専門職業人としての倫理観な
ど医療人としての社会的使命感の涵養、6) 学際的保健学知
識の統合による教育・研究能力の育成です。

保健学類では、国家試験受験資格の取得のためのカリキュ
ラム編成がおこなわれており、このため募集単位は看護学専
攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専
攻、作業療法学専攻の5専攻を設けます。

【看護学専攻】

看護科学は、人間の誕生から死までを包括的に捉え、環境
に適応しながら健康に生活することを支援する学問です。看
護学専攻では、健康に関わる知識と技術を体系的に学習しま
す。さらに、学内及び学外の医療、保健関係現場での実習を
通じて、高い倫理観、専門職としての使命感、医療チームの
一員としての責任を学びます。また、研究やゼミを通し、将
来の医療科学を担う者として幅広い科学的知識、問題解決方
法などを学び、将来の進歩や変化に対応するための能力を養
うと同時に、実践力のある指導者、教育者、研究者となるた
めの基礎も身につけます。卒業時には、看護師、*保健師の
国家試験受験資格を取得することができます。

*保健師課程については、平成26年度入学生から選択制としています。
詳細は随時保健学類HPなどに掲載していきますので、保健師を希望
している方は確認してください。

【放射線技術科学専攻】

診療放射線技師として保健医療を支える有能で意欲のある
人材を育成することを目標とします。放射線技術科学専攻で
は、放射線、磁気や超音波を使用した医療機器の原理や特
性、情報処理技術、各種の医療画像形成法、人体の形態、機

能並びに医薬品に対する生物学的な特性など広範囲の学問を
修め、高度な医療や放射線機器の進歩に対応できる能力を養
います。また、放射線を含む量子医療技術について基礎から
臨床まで幅広い教育研究を行います。卒業時には、診療放射
線技師の国家試験受験資格を取得することができます。

【検査技術科学専攻】

検査技術科学は、主に病気の診断や治療効果判定に対して
重要な情報を提供する臨床検査を学習する学問です。本専攻
では臨床検査に関わる知識と専門技術を体系的に獲得し、医
療現場での実習を通じて医療チームの一員である専門技術者
としての役割を学びます。また、研究室配属を通じて、進歩
する医療科学を担う深い科学的考察や革新的技術などを取得
する能力を養います。卒業時には臨床検査技師の国家試験受
験資格を取得することができます。

【理学療法学専攻】

理学療法学は、リハビリテーション医療の一専門分野です。
種々の疾患や事故などにより、神経、筋、骨格、循環器、呼
吸器などに損傷や障がいをきたした人に対して、運動療法や
物理療法を駆使して治療に当たります。理学療法学専攻では、
理学療法士となるために必要な治療技術を科学的、実践的に
修得するとともに、医療人としてあるべき人間性を育成しま
す。卒業時には、理学療法士の国家試験受験資格を取得する
ことができます。

【作業療法学専攻】

作業療法士として必要な知識、技術、コミュニケーション
能力を修得し、専門職としての能力を高め、研究する態度を
もつ人材を養成します。本学の作業療法教育は脳機能解析学
や運動器障がいをはじめ、生活能力回復学の領域において幅
広い分野の専門教員の下に行われています。作業療法の技術
科学を修得し、研究を進め、技術を開発し、社会に役立つた
い人の入学を希望します。卒業時には、作業療法士の国家試
験受験資格を取得することができます。

求める人材

【看護学専攻】

- ・看護の専門技術や知識を高めて、社会に貢献する意欲
を持つ人
- ・病める人に対する医療のために、情熱を燃やすことの
できる人
- ・人間の健康、医療問題に対して国際的視野で貢献した
いと強く願う人
- ・保健の分野で、新しい技術や知識を創り出す熱意を持
つ人
- ・看護学及び看護の進歩のために、将来のリーダーとな
る夢を持つ人

【放射線技術科学専攻】

- ・診療放射線技師として保健医療を支えることができる
有能な人
- ・高度先進医療に対応し常に努力することができる人
- ・専門的な知識を習得するのみならず研究・思考するこ
とができる人
- ・患者の立場に立って行動・発言できる豊かな人間性を
持つ人

【検査技術科学専攻】

- ・病める人に対する医療のために、知識や専門技術を高め、社会に貢献する情熱を持つ人
- ・医療科学の分野で新しい技術や知識を創り出す熱意を持つ人
- ・臨床検査技術の進歩に貢献し、将来のリーダーとなる夢を持つ人

【理学療法学専攻】

- ・豊かな人間性と愛情を持ち、学習意欲の高い人
- ・社会のニーズに応え、努力を惜しまない人
- ・理学療法学の今後を担い、人類社会に貢献できる人

【作業療法学専攻】

- ・たゆまず努力して、自分の能力を高めようとする人
- ・専門技術や知識を高めて、社会に貢献する意欲を持つ人
- ・病める人に対する医療のために、情熱を燃やすことのできる人
- ・人間の新たな能力を引出し活用する作業療法を修得し発展させたい人

選抜の基本方針

■一般入試

基礎学力に加え、前期日程（全専攻）では理科と英語の学力、後期日程（3専攻）では面接試問での理解力・表現力・勉学意欲・資質適性等を重視します。

■推薦入試

面接で医療人としての適格性の評価および調査書による総合評価をします。また、看護学専攻、作業療法学専攻では小論文による資質評価をし、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻では基礎学力を重視します。

■帰国子女入試

理科と英語の学力に加え、調査書による総合評価をします。

■私費外国人留学生入試

小論文、面接による資質適格性を評価し、英語、日本語能力を加えて総合判断します。

入学までに身につけて欲しい教科・科目等

【看護学専攻】

論理的思考力・表現力を身につけるため、文系科目と理系科目の幅広い基礎学力の習得を望みます。

【放射線技術科学専攻】

文章を正確に読解し、事象に応じて的確に記述する国語・英語力の習得を望みます。また科学的な視点で事象を読解するための基礎的な知識が必要であり、理科・数学を学んでおくことも望まれます。

【検査技術科学専攻】

種々の臨床検査技術における基礎となる理論や科学的考察には、数学、物理、化学及び生物学の考え方や知識が必要で、高等学校においてこれらの教科の履修が望まれます。また、情報収集及び発信に必要な英語の力が求められます。

【理学療法学専攻】

高等学校までに学ぶ国語、社会、数学、理科、英語に

ついて十分な基礎学力を身につけておくことが重要です。

【作業療法学専攻】

理系科目と文系科目の均衡がとれた幅広い基礎学力の習得を望みます。

2 募集人員

学域・学類等		入学定員	募集人員						
			一般入試		推薦入試	帰国子女入試	AO入試		
			前期日程	後期日程					
人間社会学域	人文学類	145	105	35	推薦入試 I 人間科学コース 専門分野：哲学・人間学 1 歴史文化学コース 専門分野 { 日本史学 1 東洋史学 1 西洋史学 1 言語文化学コース 専門分野：中国語学中国文学 1	5	若干名	—	
	法学類	170	125 (L方式 75 M方式 50)	30	推薦入試 II	15	若干名	—	
	経済学類	185	150	25	推薦入試 I	10	若干名	—	
	学校教育学類	100	64	—	推薦入試 I (特別支援教育専修 5 美術教育専修 3) 推薦入試 II (国語教育専修 3 社会科教育専修 3 数学教育専修 3 理科教育専修 4 音楽教育専修 4 保健体育専修 5 家政教育専修 3 英語教育専修 3)	36 8	—	—	
	地域創造学類	80	50	10	推薦入試 I (福祉マネジメントコース 4 環境共生コース 4) 推薦入試 II (地域プランニングコース 4 健康スポーツコース 8)	20 8 4 12 4 8	若干名	—	
	国際学類	70	40	15	推薦入試 I	15	若干名	—	
	計	750	534	115	推薦入試 I 推薦入試 II	101 46 55	—	—	
理工学域	数物科学類	84	69	15	—	—	若干名	—	
	物質化学類	81	61	20	—	—	若干名	—	
	機械工学類	140	120	20	—	—	若干名	—	
	電子情報学類	108	86	22	—	—	若干名	—	
	環境デザイン学類	74	64	10	—	—	若干名	—	
	自然システム学類	102	82	13	推薦入試 I	7	若干名	—	
	計	589	482	100	推薦入試 I 推薦入試 II	7 55	—	—	
医薬保健学域	医学類(6年制)	112	85	—	推薦入試 II (一般枠 15 特別枠 12)	27	若干名	—	
	薬学類(6年制)	35	—	—	—	—	若干名	5	
	創薬科学類	40	70	—	—	—	若干名	—	
	保健学類	看護学専攻	80	55	10	推薦入試 I	15	若干名	—
		放射線技術科学専攻	40	29	5	推薦入試 II	6	若干名	—
		検査技術科学専攻	40	29	5	推薦入試 II	6	若干名	—
		理学療法学専攻	20	15	—	推薦入試 I	5	若干名	—
		作業療法学専攻	20	15	—	推薦入試 I	5	若干名	—
	小計	200	143	20	推薦入試 I 推薦入試 II	37 25 12	—	—	
	計	387	298	20	推薦入試 I 推薦入試 II	64 25 39	—	5	
合計	1,726	1,314	235	推薦入試 I 推薦入試 II	172 78 94	—	5		

- (注)
1. 前期日程の募集人員には、帰国子女入試の募集人員も含まれます。
 2. 推薦入試、帰国子女入試及びAO入試の合格者(入学手続者)が募集人員に満たなかった場合は、一般入試の合格者で補充します。
 3. 法学類の一般入試(前期日程)のL方式は個別学力検査で国語と外国語を受験する方式、M方式は個別学力検査で数学と外国語を受験する方式です。
 4. 医薬保健学域薬学類(6年制)、創薬科学類(4年制)の選抜は一括で実施します。各学類への所属は3年次後期からとなります。
 5. 推薦入試 I は、大学入試センター試験を課さない推薦入試です。推薦入試 II は、大学入試センター試験を課す推薦入試です。
 6. AO入試は、大学入試センター試験を課す入試です。
 7. 推薦入試、帰国子女入試、AO入試の詳細は、25～47ページに記載しています。

3 入学者選抜方法等

1 一般入試，専門高校・総合学科卒業生入試

学域・学類	選抜方法等	個別学力検査等										専門高校・総合学科卒業生入試	個別学力検査等の日程	備考(欠員の補充の方法等)	
		個別学力検査を課す	実技検査等				2段階選抜								
			実技検査を課す	面接又は口述試験を行う	小論文を課す	外国語におけるリスニングテストを課す	主として、大学入試センター試験の成績により第1段階選抜を行い、その合格者について更に必要な検査等を行う	第1段階に合格のよ者数	定員に対する倍率	その他					
前期日程															
人間社会学域	人文学類														
	法学類					○*									
	経済学類	○	×	×	×		×	×	×	×				平成28年 2月25日(木)	
	学校教育学類					×									
	地域創造学類					○*									
理工学域	国際学類					×									
	数物科学類														
	物質化学類														
	機械工学類	○	×	×	×	×	×	×	×	×				平成28年 2月25日(木)	
	電子情報学類														
医薬保健学域	環境デザイン学類														
	自然システム学類														
	医学類									○	3.5倍程度	×		平成28年 2月25日(木) ～26日(金)	
	薬学類	○	×		×	×					×	×		平成28年 2月25日(木)	
人間社会学域	創薬科学類									×	×				
	保健学類														
	法学類														
	経済学類	×	×	×	○	×	×	×	×	×				平成28年 3月12日(土)	
理工学域	地域創造学類														
	国際学類														
	数物科学類														
	物質化学類														
	機械工学類	○		×	×	×	×	×	×	×				平成28年 3月12日(土)	
医薬保健学域	電子情報学類														
	環境デザイン学類	×		○											
人間社会学域	自然システム学類														
	保健学類	×	×	○	×	×	×	×	×	×				平成28年 3月12日(土)	

3 2 1 「前期日程」と「前期日程」、「後期日程」と「後期日程」の併願はできないので注意してください。
 学内併願について、「前期日程」と「後期日程」と同じ学域学類又は異なった学域学類を受験することを認めます。
 欠員の補充は、追加合格及び欠員補充第2次募集により行います。

- (注) 1. ○印は該当することを示し，×印は該当しないことを示します。
 2. ○*は，選択できる学域学類の中でドイツ語，フランス語及び中国語を選択した場合にリスニングテストを課すことを示します。
 3. 医薬保健学域薬学類(6年制)，創薬科学類(4年制)の選抜は一括で実施します。各学類への所属は3年次後期からとなります。
 4. 実施教科・科目等については，16～24ページで確認してください。

2 推薦入試, 帰国子女入試, アドミッション・オフィス入試 (AO入試)

学域・学類等		推 薦 入 試								帰国子女・社会人等のための入試			アドミッション・オフィス入試	その他の入試	備 考	
		入学定員の一部について, 出身学校長の推薦に基づき, 学力検査を免除し調査書を主な資料として判定する								推薦入試募集人員	帰国子女	中国引揚者等子女				社会人
		個別学力検査を免除し, 大学入試センター試験を課す	個別学力検査及び大学入試センター試験を免除する	実 技 検 査 等			その他									
学入試センター試験を課す	個別学力検査を免除し, 大学入試センター試験を免除する	実技検査を課す	面接又は口述試験を行う	小論文を課す	外国語におけるリスニングテストを課す	その他										
人間社会学域	人文学類	人間科学コース 専門分野: 哲学・人間学	×	○	×	○	○	×	×	1	○				1つの大学の推薦入試(大学入試センター試験を課す場合・課さない場合を含めて)に出願することができるのは,	
	歴史文化学コース 専門分野: 日本史学	×	○	×	○	○	×	×	1							
	歴史文化学コース 専門分野: 東洋史学	×	○	×	○	○	×	×	1							
	歴史文化学コース 専門分野: 西洋史学	×	○	×	○	○	×	×	1							
	言語文化学コース 専門分野: 中国語学中国文学	×	○	×	○	○	×	×	1							
	法学類		○	×	×	○	×	×	×	15	×		×	×		
	経済学類		×	○	×	○	○	×	×	10						
	特別支援教育専修		×	○	×	○	○	×	×	5						
	国語教育専修		○	×	×	○	×	×	×	3						
	社会科教育専修		○	×	×	○	×	×	×	3						
	数学教育専修		○	×	×	○	×	×	×	3						
	理科教育専修		○	×	×	○	×	×	×	4						
	音楽教育専修		○	×	○	○	×	×	×	4						
	美術教育専修		×	○	○	○	×	○ ^{*1}	×	3						
	保健体育専修		○	×	×	○	×	×	×	5						
	家政教育専修		○	×	×	○	×	×	×	3						
	英語教育専修		○	×	×	○	○	×	×	3						
	地域創造学類	福祉マネジメントコース	×	○	×	○	○	×	×	4	○					
	環境共生コース	×	○	×	○	○	×	×	4							
	地域プランニングコース	○	×	×	○	×	×	×	4							
健康スポーツコース	○	×	×	○	×	×	×	8								
国際学類		×	○	×	○	×	×	○ ^{*2}	15	○	×	×	×			
理工学域	数物科学類	×	×	×	×	×	×	×	—							
物質化学類	×	×	×	×	×	×	×	×	—							
機械工学類	×	×	×	×	×	×	×	×	—							
電子情報学類	×	×	×	×	×	×	×	×	—							
環境デザイン学類	×	×	×	×	×	×	×	×	—							
自然システム学類	×	○	×	○	○	×	×	×	7							
医薬保健学域	医学類	一般枠	○	×	×	○	×	×	×	15	○	×	×	×		
	特別枠								12							
	薬学類		×	×	×	×	×	×	×	—						
	創薬科学類									—						
	看護学専攻	×	○	×	○	○	×	×	×	15						
	放射線技術科学専攻	○	×	×	○	×	×	×	×	6						
	検査技術科学専攻	○	×	×	○	×	×	×	×	6						
	理学療法専攻	×	○	×	○	×	×	×	×	5						
作業療法専攻	×	○	×	○	○	×	×	×	5							

- (注) 1. ○印は該当することを示し, ×印は該当しないことを示します。
 2. ○^{*1}の人間社会学域学校教育学類美術教育専修推薦入試では, 作品の提出を求めます。
 3. ○^{*2}の人間社会学域国際学類では, 外部試験 (TOEFL, TOEIC, 英語検定, 国連英語検定, ケンブリッジ英語検定, IELTS のいずれか) のスコアを判定の資料とします。
 4. 医薬保健学域薬学類 (6年制), 創薬科学類 (4年制) の選抜は一括で実施します。各学類への所属は3年次後期からとなります。
 5. 募集人員, 出願要件, 選抜方法等については, 25~47ページで確認してください。

4 一般入試

入学者の選抜は、分離・分割方式（前期日程・後期日程）で行い、大学入試センター試験並びに本学が行う個別学力検査等及び調査書の審査の結果を総合して行います。

一般入試は、配点比率を示した大学入試センター試験と個別学力検査等の結果を総合して合否判定を行うのが基本であり、調査書は履修状況・学業成績等を確認するための資料ないし面接試験の参考資料として用います。

1 実施日程

(1) 大学入試センター試験

大学入試センター試験実施日……………平成28年1月16日（土）、17日（日）

(2) 個別学力検査

項目	前期日程	後期日程
出願期間	平成28年1月25日（月）～2月3日（水）	
2段階選抜の 第1段階選抜 合格者発表日	2月10日（水） ※医薬保健学域医学類のみ	—
学力検査等実施日	2月25日（木） ※全学域	3月12日（土）
	2月26日（金） ※医薬保健学域医学類の面接のみ	
合格者発表日	3月8日（火）	3月22日（火）

2 出願資格

次のいずれかに該当し、平成28年度大学入学者選抜大学入試センター試験において、志望する学域学類等が課すすべての教科・科目（16～24ページ「3. 入学者選抜の実施教科・科目等」）を受験した者*

- (1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成28年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成28年3月修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条第1号から第5号の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成28年3月31日までにこれに該当する見込みの者
- (4) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第150条第7号の規定により、本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、平成28年3月31日までに18歳に達するもの

【注】 上記(4)により出願しようとする場合は、個別の入学資格審査を行いますので、金沢大学Webサイトの「金沢大学入学資格審査申請要領」により申請してください。

（金沢大学（入試情報）Webサイト <http://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission/sinsa/>）

※ 大学入試センター試験において、志望する学域学類等が課すすべての教科・科目を受験しなければ、個別学力検査等を受験できません。

〔参考〕学校教育法施行規則第150条

学校教育法第90条第1項の規定により、大学入学に関し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 1 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- 2 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- 3 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- 4 文部科学大臣の指定した者
- 5 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- 6 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、当該者をその後に入学者とする大学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- 7 大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの

3 入学者選抜の実施教科・科目等

【留意事項】

1. 教科，科目名は，次のとおりカッコ内の語を略記しています。

国 語……国（国語），国総（国語総合）

地理歴史……地歴（地理歴史），世B（世界史B），日B（日本史B）

公 民……現社（現代社会），倫（倫理），政経（政治・経済），倫・政経（倫理，政治・経済）

数 学……数（数学），数Ⅰ（数学Ⅰ），数Ⅱ（数学Ⅱ），数Ⅲ（数学Ⅲ），数A（数学A），数B（数学B），簿（簿記・会計），情報（情報関係基礎），◎工（工業数理基礎）

理 科……理（理科），物基（物理基礎），化基（化学基礎），生基（生物基礎），地基（地学基礎）

外国語……外（外国語），英（英語），コ英Ⅱ（コミュニケーション英語Ⅱ），コ英Ⅲ（コミュニケーション英語Ⅲ），英表Ⅰ（英語表現Ⅰ），英表Ⅱ（英語表現Ⅱ），独（ドイツ語），仏（フランス語），中（中国語），韓（韓国語）

※先頭に◎印を付した科目「◎工（工業数理基礎）」は，旧教育課程履修者のための出題科目です。後述，「9. 旧教育課程履修者に対する経過措置」を参照してください。

2. 大学入試センター試験の「数学」のうち，「簿記・会計」，「情報関係基礎」，◎「工業数理基礎」を選択できる者は，高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了（見込み）者に限ります。

3. 大学入試センター試験の「理科」のうち，「基礎を付した科目」（「物理基礎」，「化学基礎」，「生物基礎」，「地学基礎」）から2科目を選択するように指定している学類の中で，**人文学類**，**法学類**，**経済学類**，**学校教育学類**（推薦入試Ⅱの一部），**国際学類**においては，「基礎を付していない科目」（「物理」，「化学」，「生物」，「地学」）から2科目を選択した場合，基礎を付した2科目を選択したものと見なし，合計得点（200点満点）を100点満点に換算して利用します。

4. 個別学力検査の「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」，「数学B」，「物理基礎・物理」，「化学基礎・化学」，「生物基礎・生物」，「地学基礎・地学」の出題範囲については，次のとおりです。

「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」……それぞれの全範囲を出題範囲とします。

「数学B」……「数列」，「ベクトル」を出題範囲とします。

「物理基礎・物理」……「物理基礎」及び「物理」の全範囲から出題します。

「化学基礎・化学」……「化学基礎」及び「化学」の全範囲から出題します。

「生物基礎・生物」……「生物基礎」及び「生物」の全範囲から出題します。

「地学基礎・地学」……「地学基礎」及び「地学」の全範囲から出題します。

5. 個別学力検査の「独（ドイツ語）」，「仏（フランス語）」，「中（中国語）」は，リスニングテストを課します。

6. 大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等について

(1) 配点に※印を付してある教科は，選択教科を表します。

(2) 大学入試センター試験で，指定した教科・科目数を超えて受験している場合は，指定した教科・科目数の範囲で高得点の順に教科・科目の成績を利用します。

ただし，『「地理歴史」「公民」の受験科目を1科目と指定した学類において2科目受験している場合及び「理科」の受験科目を1科目と指定した学類において，2科目受験している場合は，それぞれ受験した科目のうち第1解答科目の成績を採用します。（第1解答科目が指定した科目以外の場合は失格となります。）

なお，人間社会学域人文学類（後期日程）及び地域創造学類（後期日程）の，『「地理歴史」「公民」に関しては，第1解答科目が指定した科目以外の場合，『「地理歴史」「公民」の第2解答科目は採用せず，指定した教科・科目の範囲で高得点の順に他教科の成績を採用します。ただし，「理科」については，以下のように成績を用います。

（『「地理歴史」「公民」及び「理科②」の試験時間において2科目を選択する場合，解答順に前半に受験した科目を第1解答科目，後半に受験した科目を第2解答科目とします。）

人文学類（後期日程）

「基礎を付した科目」2科目の合計得点。

地域創造学類（後期日程）

「基礎を付した科目」2科目の合計得点又は「基礎を付していない科目」の第1解答科目の得点のうち，いずれか得点の高い成績。

- (3) 大学入試センター試験で「数学」2科目又は「理科」2科目を課す学域学類等については、2科目の合計を表記しています。各科目の配点は各々2分の1とします。
- (4) 医薬保健学域医学類及び薬学類・創薬科学類の個別学力検査の「理科」2科目については、2科目の合計を表記しています。各科目の配点は各々2分の1とします。
- (5) 大学入試センター試験の「英語」にはリスニングテストが含まれており、成績は、筆記試験（200点満点）とリスニングテスト（50点満点）の合計得点を200点満点となるように圧縮し、他の外国語と比較できるようにして利用します。
- なお、大学入試センター試験の「英語」のリスニングテストが免除となる重度難聴者については、「英語」の筆記試験の成績（200点満点）を圧縮せずに利用します。
- また、入学者選抜の配点にあたっては、学域学類等に示されているセンター試験の「外国語」の配点に換算します。

7. 大学入試センター試験で、志望する学域学類等が課す**すべての教科・科目等を受験**しなければ、個別学力検査等を受験することはできません。
- また、個別学力検査等で、志望する学域学類等が課す**すべての教科・科目等を受験**しなければ**失格**となります。

8. 2段階選抜の実施

医薬保健学域医学類については、**志願者数が募集人員に対する予告倍率（3.5倍程度）を超えた場合には**、大学入試センター試験の教科・科目の配点による成績の総得点により第1段階選抜を行うことがあります。その場合は、第1段階選抜合格者についてのみ第2段階選抜を実施します。

9. 旧教育課程履修者に対する経過措置

(1) 個別学力検査

個別学力検査では、旧教育課程履修者に対する経過措置は講じません。

(2) 大学入試センター試験

- ① 先頭に◎印を付した◎「工業数理基礎」は、旧教育課程履修者のための出題科目です。
- ② 旧教育課程履修者は、大学入試センター試験の「数学」において、旧教育課程により出題される◎「工業数理基礎」を選択解答できるものとします。ただし、◎「工業数理基礎」を選択解答できる者は、高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了（見込み）者に限ります。
- ③ 新教育課程履修者は、大学入試センター試験の◎「工業数理基礎」を選択解答することはできません。
- (3) 「新教育課程履修者」とは、高等学校（特別支援学校の高等部並びに中等教育学校の後期課程を含む。）に平成25年4月に入学又は進級し、平成28年3月卒業見込みの者をいいます。
- (4) 「旧教育課程履修者」とは、前述の(3)「新教育課程履修者」以外の者をいいます。
- (5) 「新教育課程」とは、平成25年4月1日から適用された高等学校学習指導要領（平成21年文部科学省告示第34号）に基づく教育課程及び平成21年3月9日文部科学省告示第38号の特例により定められた教育課程をいいます。
- (6) 「旧教育課程」とは、従前の高等学校学習指導要領に基づく教育課程をいいます。

10. 人文学類，学校教育学類，地域創造学類，国際学類の内容が表示してある表の下にも「注意事項」が書いてありますので、必ず参照してください。

学域・学類等名及び入学定員等	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の 利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等								その他の 選抜方法 等					
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の 区分	国語	地歴	公民	理科	数学	外国語		小論文	面接・ 口述試験	配点 合計		
人間社会 学域 750人 前期 534 後期 115 推薦 101	人文学類 145人 前期 105 後期 35 推薦 5	前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B }から2 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科8科目〕又は〔6教科8科目〕	国 外	国総 コ英II・コ英III・英表 I・英表II, 独, 仏, 中 から1	—	センター 試験	200	※300 (150×2)	100	200	200			1000	推薦 婦女子女 外国人 追加合格 欠員補充		
								個別学力 検査等					300					300	
		計	500	300	100	200	500					1600							
		後期 3月12日	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数I・数A, 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔3教科3科目〕又は〔3教科4科目〕	そ 他	小論文(広く人間・社会・ 歴史・文化・言語に 関する課題を示して論 述させます。)	—	センター 試験	100	※100(100×1)			100			300			
	個別学力 検査等											300			300		600		
	計	100	100			100	300				600								
	法学類 170人 前期 125 後期 30 推薦 15	L方式 前期 75 前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B }から2 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科8科目〕又は〔6教科8科目〕	国 外	国総 コ英II・コ英III・英表 I・英表II, 独, 仏, 中 から1	—	センター 試験	200	※200 (100×2)	100	200	200			900	推薦 婦女子女 外国人 追加合格 欠員補充		
								個別学力 検査等					300			300			600
								計	500	200	100	200	500					1500	
								M方式 前期 50	数 外	数I・数II・数A・数B コ英II・コ英III・英表 I・英表II, 独, 仏, 中 から1	—	センター 試験	200	※200 (100×2)	100	200		200	
		個別学力 検査等				300	300						600						
		計	200	200	100	500	500						1500						
後期 3月12日		そ 他	小論文(広く社会・文化 に関する課題を示して論 述させます。)	—	センター 試験	200	※200 (100×2)	100				200	200			900			
					個別学力 検査等						600		600						
	計				200	200	100	200	200	600		1500							
	経済学類 185人 前期 150 後期 25 推薦 10				前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B }から2 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科8科目〕又は〔6教科8科目〕	国 数 外	国総 数I・数II・数A・数B コ英II・コ英III・英表 I・英表II, 独から1	—	センター 試験	200	※200 (100×2)	100	200	200			900
個別学力 検査等												200			200		600		
計		400	200	100	400	400				1500									
後期 3月12日		そ 他	小論文(現代の文化・社会・ 経済に関する課題に ついて論述させます。 英文を出題します。)	—	センター 試験	200	※200 (100×2)	100	200	200			900						
	個別学力 検査等										600		600						
計	200	200	100	200	200	600			1500										

学域・学類等名 及び入学定員等	学力検査等の 区分・ 日程	大学入試センター試験の 利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等								その他の 選抜方法 等			
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の 区分	国語	地歴	公民	理科	数学	外国語		小論文	面接・ 口述試験	配点 合計
人間社会 学域	学校教育学類 100人 前期 64 推薦 36	前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外 パターン A	国語 世B, 日B, 地理B }から2 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 又は 物理, 化学, 生物, 地学から1 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕, 〔5教科8科目〕, 〔6教科7科目〕又は〔6教科8科目〕	国 数 理 外 国総 数I・数II・数A・数B }から1 物基・物理, 化基・化学, 生基・生物, 地基・地学 コ英II・コ英III・英表I・ 英表II	—	セ ン タ ー 試 験	パターンA	200	※200 (100×2)	100	200	200			900	推薦 外国人 追加合格 欠員補充
								パターンB	200	※100 (100×1)	200	200	200			900	
							個別学力 検査等		※300		※300	※300	300			600	
							パターン A 国語選択 (個別)	500	200	100	200	500			1500		
							パターン A 数学選択 (個別)	200	200	100	500	500					
			パターン A 理科選択 (個別)	200	200		400	200	500								
			パターン B 国語選択 (個別)	500	100		200	200	500								
			パターン B 数学選択 (個別)	200	100		200	500	500								
			パターン B 理科選択 (個別)	200	100		500	200	500								
			国 地歴 公民 数 理 外 パターン B	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物基, 化基, 生基, 地基から2と 物理, 化学, 生物, 地学から1 又は 物理, 化学, 生物, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕又は〔5教科8科目〕			計										

【人文学類（後期日程）】 注意事項

(注1) 人文学類（後期日程）における大学入試センター試験において、{『「地理歴史」「公民』, 「数学」, 「理科」} から2科目となるのは、「理科」から「基礎を付した科目」2科目又は「基礎を付していない科目」2科目の場合のみです。

【学校教育学類（前期日程）】 注意事項

- (1) 学校教育学類（前期日程）における「大学入試センター試験の利用教科・科目名」は、パターンA又はパターンBのいずれかによる受験が必要です。
- (2) パターンBの、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について、同一名称を含む科目（例えば「物理基礎」と「物理」）を組み合わせることはできません。
- (3) 『「地理歴史」「公民』と「理科」で5科目受験している場合（つまり、『「地理歴史」「公民』2科目+「理科」の「基礎を付した科目」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」1科目）、以下のように成績を用います。
 - ① 『「地理歴史」「公民』の第1解答科目
 - ② 『「地理歴史」「公民』の第2解答科目, 「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「理科」の「基礎を付していない科目」1科目のうち得点の高い順に2科目（「理科」の「基礎を付した科目」2科目を採用した場合は3科目）。
- (4) 『「地理歴史」「公民』と「理科」で4科目受験している場合（つまり、『「地理歴史」「公民』2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」2科目）、以下のように成績を用います。
 - ① 『「地理歴史」「公民』の第1解答科目
 - ② 「理科」の第1解答科目
 - ③ 『「地理歴史」「公民』及び「理科」の第2解答科目のうち得点の高い科目

学域・学類等名及び入学定員等	学力検査等の区分・日程	大学入試センター試験の利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										その他の選抜方法等						
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階選抜	試験の区分	国語	地歴	公民	理科	数学	外国語	小論文	面接・口述試験		配点合計					
人間社会学域	地域創造学類 80人 前期 50 後期 10 推薦 20	前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外 パターンA	国語 世B, 日B, 地理B }から2 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 又は 物理, 化学, 生物, 地学から1 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕, 〔5教科8科目〕, 〔6教科7科目〕又は〔6教科8科目〕	国 数 外	国総 数I・数II・数A・数B }から2 コ英II・コ英III・英表 I・英表II, 独から1	—	センター試験	200	※200 (100×2)	100	200	200				900	推薦 帰国子女 外国人 追加合格 欠員補充				
				パターンB				200	※100 (100×1)	200	200	200				900						
				個別学力検査等				※200				※200	※200			400						
				パターンA 国語 数学 選択(個別)				400	200	100	400	200										
				パターンA 国語 外国語 選択(個別)				400	200	100	200	400										
		パターンA 数学 外国語 選択(個別)	200	200	100	400	400										1300					
		パターンB 国語 数学 選択(個別)	400	100	200	400	200															
		パターンB 国語 外国語 選択(個別)	400	100	200	200	400															
		パターンB 数学 外国語 選択(個別)	200	100	200	400	400															
		後期 3月12日	国 地歴 公民 数 理 外 パターンB	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物基, 化基, 生基, 地基から2と 物理, 化学, 生物, 地学から1 又は 物理, 化学, 生物, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科7科目〕又は〔5教科8科目〕	その他	小論文(広く地域・社会・文化に対する課題を示して論述させます。)	—	センター試験	※200(100×2)						200							
個別学力検査等												400	400									
計	200							400	600													
国際学類 70人 前期 40 後期 15 推薦 15	前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B }から2 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 英(注2), 独, 仏, 中, 韓から1 〔5教科8科目〕又は〔6教科8科目〕	国 外	国総 コ英II・コ英III・英表 I・英表II	—	センター試験	200	※200 (100×2)	100	200	200				900	推薦 帰国子女 外国人 追加合格 欠員補充					
			個別学力検査等				300				300					600						
	計	500	200	100	200	500						1500										
	後期 3月12日	国 地歴 公民 外	国語 世B, 日B, 地理B }から2 倫・政経 英(注2), 独, 仏, 中, 韓から1 〔3教科4科目〕又は〔4教科4科目〕	その他	小論文(広く社会・文化に関する課題について論述させます。英文も出題します。)	—	センター試験	200	※200 (100×2)			200				600						
個別学力検査等											600	600										
計	200	200				200	600	1200														

【地域創造学類(前期日程)】 注意事項

- (1) 地域創造学類(前期日程)における「大学入試センター試験の利用教科・科目名」は、パターンA又はパターンBのいずれかによる受験が必要です。
- (2) パターンBの、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について、同一名称を含む科目(例えば「物理基礎」と「物理」)を組み合わせることはできません。
- (3) 『「地理歴史」「公民」と「理科」で5科目受験している場合(つまり、『「地理歴史」「公民」2科目+「理科」の「基礎を付した科目」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」1科目)、以下のように成績を用います。
 - ① 『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目
 - ② 『「地理歴史」「公民」』の第2解答科目、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「理科」の「基礎を付していない科目」1科目のうち、得点の高い順に2科目(「理科」の「基礎を付した科目」を採用した場合は3科目)。
- (4) 『「地理歴史」「公民」と「理科」で4科目受験している場合(つまり、『「地理歴史」「公民」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」2科目)、以下のように成績を用います。
 - ① 『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目
 - ② 「理科」の第1解答科目
 - ③ 『「地理歴史」「公民」』及び「理科」の第2解答科目のうち得点の高い科目

【地域創造学類（後期日程）】 注意事項

地域創造学類(後期日程)における大学入試センター試験において、『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目が指定した科目以外の場合は、『「地理歴史」「公民」』の第2解答科目の成績は採用せず、指定した教科・科目の範囲で高得点の順に他教科の成績（「理科」の「基礎を付していない科目」については第1解答科目の成績）を採用します。

(注1) {「国語」, 『「地理歴史」「公民」』, 「数学」, 「理科」, 「外国語」} から3科目となるのは、「理科」の「基礎を付した科目」2科目と他教科の1科目の場合のみです。

【国際学類】 注意事項

(注2) 国際学類（前期日程、後期日程）における大学入試センター試験の「英語」については、外部試験のスコアの提出を認め、このスコアがTOEFL-iBT71以上、TOEFL-PBT525以上、TOEIC750以上、英語検定準1級以上、IELTSバンド6.0以上のいずれかの水準を超えている場合には、大学入試センター試験における「英語」の成績を満点とみなして利用します。

ただし、同外部試験のスコアが、いずれかの水準を超えている場合であっても、大学入試センター試験における「外国語」を受験する必要があります。

学域・学類等名 及び入学定員等	学力検査等の 区分・ 日程	大学入試センター試験の 利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等								その他の 選抜方法 等			
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の 区分	国語	地歴	公民	理科	数学	外国語		小論文	面接・ 口述試験	配点 合計
理工学域 589人 前期 482 後期 100 推薦 7	数物科学類 84人 前期 69 後期 15	国 地歴 公民 数	国語 世B, 日B, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫・政経 }から1 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1	数 理 外	数I・数II・数III・数 A・数B 物基・物理, 化基・化学 から1 コ英II・コ英III・英表 I・英表II	—	センター 試験	200	※100 (100×1)		200	200	200			900	帰国子女 外国人 追加合格 欠員補充
							個別学力 検査等				350	450	100			900	
							計	200	100		550	650	300			1800	
		理 外	数I・数II・数III・数 A・数B 物基・物理	—	センター 試験	200	※100 (100×1)		200	200	200					900	
					個別学力 検査等				300	300				600			
					計	200	100		500	500	200			1500			
	物質化学類 81人 前期 61 後期 20	国 地歴 公民 数	国語 世B, 日B, 地理B 現社, 倫, 政経, 倫・政経 }から1 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物理と化学 英, 独, 仏, 中, 韓から1	数 理 外	数I・数II・数III・数 A・数B 化基・化学 コ英II・コ英III・英表 I・英表II	—	センター 試験	100	※50 (50×1)		100	100	100			450	
							個別学力 検査等				200	200	200			600	
							計	100	50		300	300	300			1050	
		理	化基・化学	—	センター 試験	50	※50 (50×1)		100	100	100					400	
					個別学力 検査等				400					400			
					計	50	50		500	100	100			800			
機械工学類 140人 前期 120 後期 20	国 地歴 公民 数	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物理と化学 英, 独, 仏, 中, 韓から1	数 理 外	数I・数II・数III・数 A・数B 物基・物理 コ英II・コ英III・英表 I・英表II	—	センター 試験	100	※50 (50×1)		100	100	100			450		
						個別学力 検査等				200	250	200			650		
						計	100	50		300	350	300			1100		
	外 英	[1教科1科目]	—	センター 試験						200					200		
				個別学力 検査等				200	200				400				
				計				200	200	200			600				

学域・学類等名 及び入学定員等	学力検査等の 区分・ 日程	大学入試センター試験の 利用教科・科目名		個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等										その他の 選抜方法 等		
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の 区分	国語	地歴	公民	理科	数学	外国語	小論文	面接・ 口述試験		配点 合計	
理工学域	電子情報学類 108人 前期 86 後期 22	前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物理, 化学, 生物から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 (5教科7科目)	数 理 外	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数 A・数B 物基・物理 コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表 Ⅰ・英表Ⅱ	—	センター 試験	100	※50 (50×1)		100	100	100			450	帰国子女 外国人 追加合格 欠員補充
								個別学力 検査等				200	250	200			650	
								計	100	50		300	350	300			1100	
		後期 3月12日	数 理 外	数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物理, 化学, 生物から2 英 (3教科5科目)	数	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数 A・数B	—	センター 試験				200	100	100			400	
								個別学力 検査等				200				200		
								計				200	300	100		600		
	環境デザイン 学類 74人 前期 64 後期 10	前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物理と化学 英, 独, 仏, 中, 韓から1 (5教科7科目)	数 理 外	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数 A・数B 物基・物理, 化基・化学 から1 コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表 Ⅰ・英表Ⅱ	—	センター 試験	100	※50 (50×1)		100	100	100			450	
								個別学力 検査等				200	250	200			650	
								計	100	50		300	350	300			1100	
		後期 3月12日	その他	面接(多面的な試問を行 い, 勉学遂行意欲を評定 します。)	—	センター 試験	100	※100 (100×1)		100	100	100				500		
						個別学力 検査等							100	100				
						計	100	100		100	100	100		100	600			
自然システム 学類 102人 前期 82 後期 13 推薦 7	前期 2月25日	国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 (5教科7科目)	数 理 外	数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数 A・数B 物基・物理, 化基・化学, 生基・生物, 地基・地学 から1 コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表 Ⅰ・英表Ⅱ	—	センター 試験	100	※100 (100×1)		200	100	100			600		
							個別学力 検査等				200	200	100			500		
							計	100	100		400	300	200			1100		
	後期 3月12日	数 理 外	数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 (3教科5科目)	その他	口述試験	—	センター 試験				400	300	300			1000		
							個別学力 検査等							100	100			
							計				400	300	300		100	1100		

学域・学類等名 及び入学定員等	学力検査等の 区分・ 日程	大学入試センター試験の 利用教科・科目名		個別学力検査等			大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等							その他の 選抜方法 等				
		教科	科目名等	教科等	科目名等	2段階 選抜	試験の 区分	国語	地歴	公民	理科	数学	外国語		小論文	面接・ 口述試験	配点 合計	
医薬保健 学域 387人 前期 298 後期 20 推薦 64 AO 5	医学類 112人 前期 85 推薦 27	前期 2月25日・26日	国	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目]	数	数I・数II・数III・数 A・数B 物基・物理と化基・化学 コ英II・コ英III・英表 I・英表II 面接(勉学意欲と資質等 を判断するための多面的 試問を行います。)	3.5 倍程 度	センター 試験	100	※50 (50×1)	100	100	100				450	推薦 帰国子女 外国人
			理		理外			個別学力 検査等								100	700	追加合格 欠員補充
			計		100			50	300	300	300		100	1150				
	薬学類 創薬科学類 75人 前期 70 AO 5	前期 2月25日	国	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目]	数	数I・数II・数III・数 A・数B 物基・物理と化基・化学 コ英II・コ英III・英表 I・英表II	—	センター 試験	100	※100 (100×1)	200	200	200				800	AO 帰国子女 外国人
			理		理外			個別学力 検査等								1200	追加合格 欠員補充	
			計		100			100	800	500	500		2000					
	看護学 専攻 80人 前期 55 後期 10 推薦 15	前期 2月25日	国	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目]	理	物基・物理, 化基・化学, 生基・生物から1 コ英II・コ英III・英表 I・英表II	—	センター 試験	200	※100 (100×1)	200	200	200				900	推薦 帰国子女 外国人
			理		理外			個別学力 検査等								800	追加合格 欠員補充	
			計		200			100	600	200	600		1700					
		後期 3月12日	その他		面接(多面的な試問を行 い, 勉学意欲と資質適性 を評定します。)	センター 試験	200	※100 (100×1)	200	200	200					200	200	
			個別学力 検査等															
			計		200	100	200	200	200		200	1100						
放射線 技術科学 専攻 40人 前期 29 後期 5 推薦 6	前期 2月25日	国	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目]	理	物基・物理, 化基・化学, 生基・生物から1 コ英II・コ英III・英表 I・英表II	—	センター 試験	200	※100 (100×1)	200	200	200				900	推薦 帰国子女 外国人	
		理		理外			個別学力 検査等								400	追加合格 欠員補充		
		計		200			100	400	200	400		1300						
	後期 3月12日	その他		面接(多面的な試問を行 い, 勉学意欲と資質適性 を評定します。)	センター 試験	200	※100 (100×1)	200	200	200					400	400		
		個別学力 検査等																
		計		200	100	200	200	200		400	1300							
検査 技術科学 専攻 40人 前期 29 後期 5 推薦 6	前期 2月25日	国	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目]	理	物基・物理, 化基・化学, 生基・生物から1 コ英II・コ英III・英表 I・英表II	—	センター 試験	200	※100 (100×1)	200	200	200				900	推薦 帰国子女 外国人	
		理		理外			個別学力 検査等								400	追加合格 欠員補充		
		計		200			100	400	200	400		1300						
	後期 3月12日	その他		面接(多面的な試問を行 い, 勉学意欲と資質適性 を評定します。)	センター 試験	200	※100 (100×1)	200	200	200					200	200		
		個別学力 検査等																
		計		200	100	200	200	200		200	1100							
理学 療法学 専攻 20人 前期 15 推薦 5	前期 2月25日	国	国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目]	理	物基・物理, 化基・化学, 生基・生物から1 コ英II・コ英III・英表 I・英表II	—	センター 試験	200	※100 (100×1)	200	200	200				900	推薦 帰国子女 外国人	
		理		理外			個別学力 検査等								800	追加合格 欠員補充		
		計		200			100	600	200	600		1700						
作業 療法学 専攻 20人 前期 15 推薦 5	前期 2月25日	国		国語 世B, 日B, 地理B }から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目]	理	物基・物理, 化基・化学, 生基・生物から1 コ英II・コ英III・英表 I・英表II	—	センター 試験	200	※100 (100×1)	200	200	200				900	推薦 帰国子女 外国人
		理			理外			個別学力 検査等								800	追加合格 欠員補充	
		計			200			100	600	200	600		1700					

5 推薦入試

1 推薦入試 I (大学入試センター試験を課さない)

(1) 推薦要件, 入学者選抜方法等

推薦 I 1

実施学域・学類等名	人間社会学域 人文学類 人間科学コース(専門分野:哲学・人間学)	
募集人員	1人	
	推薦要件	選抜方法等
	以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の全体の評定平均値が4.0以上であり、かつ、国語・外国語・地理歴史・公民の4教科にかかわる科目の評定平均値が4.3以上に該当する者*で、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。	1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 選抜は、小論文、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。(調査書、推薦書、志願理由書は、平素の学習活動の成果を確認し、勉学意欲・資質等を判断するための評価資料として、面接の参考とします。) 小論文—哲学や倫理学に関わるテーマについて、関連する文章を提示した上で、論述させます。 3. 配点 小論文 100点 面接 100点

*「国語・外国語・地理歴史・公民の4教科にかかわる科目の評定平均値が4.3以上に該当する者」とは、高等学校生徒指導要録に基づき、当該4教科の各科目の評定の合計数を評定数で除した数値が4.3以上である者を指します。

推薦 I 2

実施学域・学類等名	人間社会学域 人文学類 歴史文化学コース(専門分野:日本史学)	
募集人員	1人	
	推薦要件	選抜方法等
	以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の全体の評定平均値が4.0以上であり、かつ、国語・外国語・地理歴史・公民の4教科にかかわる科目の評定平均値が4.3以上に該当する者*で、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。	1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 選抜は、小論文、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。(調査書、推薦書、志願理由書は、平素の学習活動の成果を確認し、勉学意欲・資質等を判断するための評価資料として、面接の参考とします。) 小論文—日本史に関する課題について論述させます。関連する資料等を提示することもあります。 3. 配点 小論文 100点 面接 100点

*「国語・外国語・地理歴史・公民の4教科にかかわる科目の評定平均値が4.3以上に該当する者」とは、高等学校生徒指導要録に基づき、当該4教科の各科目の評定の合計数を評定数で除した数値が4.3以上である者を指します。

推薦 I 3

実施学域・学類等名	人間社会学域 人文学類 歴史文化学コース(専門分野:東洋史学)	
募集人員	1人	
	推薦要件	選抜方法等
	以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の全体の評定平均値が4.0以上であり、かつ、国語・外国語・地理歴史・公民の4教科にかかわる科目の評定平均値が4.3以上に該当する者*で、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。	1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 選抜は、小論文、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。(調査書、推薦書、志願理由書は、平素の学習活動の成果を確認し、勉学意欲・資質等を判断するための評価資料として、面接の参考とします。) 小論文—関連する文章や資料を提示した上で、アジアを中心とした世界の歴史に関する課題について論述させます。 3. 配点 小論文 100点 面接 100点

*「国語・外国語・地理歴史・公民の4教科にかかわる科目の評定平均値が4.3以上に該当する者」とは、高等学校生徒指導要録に基づき、当該4教科の各科目の評定の合計数を評定数で除した数値が4.3以上である者を指します。

実施学域・学類等名	人間社会学域 人文学類 歴史文化学コース(専門分野：西洋史学)	
募集人員	1人	
	推薦要件	選抜方法等
	以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1)高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2)通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 (3)文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の全体の評定平均値が4.0以上であり、かつ、国語・外国語・地理歴史・公民の4教科にかかわる科目の評定平均値が4.3以上に該当する者*で、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。	1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 選抜は、小論文、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。(調査書、推薦書、志願理由書は、平素の学習活動の成果を確認し、勉学意欲・資質等を判断するための評価資料として、面接の参考とします。) 小論文—欧米を中心とした世界の歴史に関わるテーマについて論述させます。その際、文章や資料を提示することもあります。 3. 配点 小論文 100点 面接 100点

※「国語・外国語・地理歴史・公民の4教科にかかわる科目の評定平均値が4.3以上に該当する者」とは、高等学校生徒指導要録に基づき、当該4教科の各科目の評定の合計数を評定数で除した数値が4.3以上である者を指します。

実施学域・学類等名	人間社会学域 人文学類 言語文化学コース(専門分野：中国語学中国文学)	
募集人員	1人	
	推薦要件	選抜方法等
	以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1)高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2)通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 (3)文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の全体の評定平均値が4.0以上であり、かつ、国語・外国語・地理歴史・公民の4教科にかかわる科目の評定平均値が4.3以上に該当する者*で、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。	1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 選抜は、小論文、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。(調査書、推薦書、志願理由書は、平素の学習活動の成果を確認し、勉学意欲・資質等を判断するための評価資料として、面接の参考とします。) 小論文—言葉、文学、文化をテーマとする文章を提示し、それらについて論述させます。文章は、英語文、中国語文の二つを提示します。いずれかを選択して日本語で解答します。 3. 配点 小論文 100点 面接 100点

※「国語・外国語・地理歴史・公民の4教科にかかわる科目の評定平均値が4.3以上に該当する者」とは、高等学校生徒指導要録に基づき、当該4教科の各科目の評定の合計数を評定数で除した数値が4.3以上である者を指します。

実施学域・学類等名	人間社会学域 経済学類	
募集人員	10人	
	推薦要件	選抜方法等
	以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 高等学校(中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含む。)の専門教育を主とする学科又は総合学科で専門教育に関する各教科・科目を20単位以上修得(見込みを含む)して平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者で、次のすべての要件を満たすもの (1)高等学校(中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。)における学習成績概評がA段階以上(評定平均4.3以上)に該当する者 (2)出身学校長が責任を持って推薦できる者 2. 本学類への明確な志向と勉学の熱意を有する者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。	1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 選抜は、小論文、面接の結果及び提出書類(調査書、推薦書、志願理由書)等により総合して行います。小論文は以下の小論文Ⅰと小論文Ⅱからなります。 小論文Ⅰ：推薦入試Ⅰ(小論文Ⅰ実施日)前日から過去5年間に発行された <i>Economist</i> 、 <i>Fortune</i> に掲載された英文の記事や論説から出題し、出題された論題について800字程度で論述させます。なお、英和辞典を貸与します。 小論文Ⅱ：現代の文化・社会・経済に関する和文の資料を与え、出題された論題について800字程度で論述させます。 3. 配点 小論文Ⅰ 100点 小論文Ⅱ 100点 面接 100点

実施学域・学類等名	人間社会学域 学校教育学類 特別支援教育専修	
募集人員	5人	
	推薦要件	選抜方法等
	以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1)高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2)通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 (3)文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当し、特別支援教育に熱意を有する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。	1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 選抜は、小論文、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。 小論文—特別支援教育に関わる種々のテーマから出題し、800字程度で論述させます。 3. 配点 小論文 400点 面接 200点

実施学域・学類等名	人間社会学域 学校教育学類 美術教育専修	
募集人員	3人	
	推薦要件	選抜方法等
	以下の1から3のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1)高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2)通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 (3)文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 特に美術に優れ、美術教育に熱意を有し、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者	1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 選抜は、実技、小論文、面接(作品提出を含む)の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。 実 技—デッサン(用具として、鉛筆、消しゴム及びデッサン用具を持参してください) 小 論 文—美術に関わる種々のテーマから出題し、600字程度で論述させます。 提出作品—自作による美術作品1点以上。分野、作品の大きさは自由とし、面接時に持参できるものとします。 3. 配点 実 技 50点 小論文 30点 面 接 20点

実施学域・学類等名	人間社会学域 地域創造学類 福祉マネジメントコース	
募集人員	4人	
	推薦要件	選抜方法等
	以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1)高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2)通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 (3)文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 人物及び学業成績が優秀で、福祉マネジメントコースでの勉学に強い意欲を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。	1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 選抜は、小論文及び面接の結果を総合して行います。 なお、調査書、推薦書、志願理由書の提出書類は面接の際に参考とします。 小論文—福祉に関することを論述させます。 3. 配点 小論文 100点 面接 100点

実施学域・学類等名	人間社会学域 地域創造学類 環境共生コース	
募集人員	4人	
	推薦要件	選抜方法等
以下の1から4のすべての条件を満たす者		
1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者		1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。
(1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者		2. 選抜は、小論文及び面接の結果を総合して行います。
(2) 通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者		なお、調査書、推薦書、志願理由書の提出書類は面接の際に参考とします。
(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者		小論文—環境共生に関することを論述させます。
2. 人物及び学業成績が優秀で、環境共生コースでの勉学に強い意欲を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者		3. 配点
3. 合格した場合、入学することを確約できる者		小論文 100点
4. 推薦は、1校につき1名とします。		面接 100点

実施学域・学類等名	人間社会学域 国際学類	
募集人員	15人	
	推薦要件	選抜方法等
以下の1から4のすべての条件を満たす者		
1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、出身学校長が責任を持って推薦できるもの		1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。
(1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者		2. 第1次選考
(2) 通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者		提出された書類の審査、外部試験の成績
(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者		外部試験—TOEFL, TOEIC, 英語検定, 国連英語検定, ケンブリッジ英語検定, IELTSのいずれかのスコア
2. 本学類への明確な志向と勉学の熱意を有する者		3. 第1次選考結果は、平成27年11月18日(水)に本人あて通知します。
3. 合格した場合、入学することを確約できる者		4. 第2次選考
4. 推薦は、1校につき1名とします。		第1次選考に合格した者に対して面接を実施します。
		なお、調査書は面接の参考とします。
		5. 合否判定
		第1次選考(100点満点)と第2次選考(100点満点)の結果を総合して行います。

実施学域・学類等名	理工学域 自然システム学類	
募集人員	7人	
	推薦要件	選抜方法等
以下の1から3のすべての条件を満たす者		
1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者		1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。
(1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者		2. 選抜は、小論文、面接の結果及び調査書、推薦書、志願理由書(志願する理由等、自己アピールを500字以内でまとめた自筆のもの)等提出された書類により総合して行います。
(2) 通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者		小論文—科学や技術に関する文章(英文を含みます)を読ませ、論述させます。
(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者		3. 配点
2. 人物及び学業成績が優秀で、本学類における勉学に熱意を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者		小論文 100点
3. 合格した場合、入学することを確約できる者		面接(調査書、推薦書、志願理由書を含む) 100点

実施学域・学類等名	医薬保健学域 保健学類 看護学専攻	
募集人員	15人	
	推薦要件	選抜方法等
以下の1から4のすべての条件を満たす者		
1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者		1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。
(1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者		2. 選抜は、小論文、面接の結果及び調査書、推薦書、志願理由書等提出された書類により総合して行います。
(2) 通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者		小論文—健康に関するテーマについて800字以内で論述させます。
(3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者		3. 配点
2. 学業成績が優秀、人物に優れ、看護学に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者		小論文 100点
3. 合格した場合、入学することを確約できる者		面接(調査書、推薦書、志願理由書等を含む) 100点
4. 推薦は、1校につき1名とします。		

実施学域・学類等名	医薬保健学域 保健学類 理学療法学専攻	
募集人員	5人	
	推薦要件	選抜方法等
	以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 学業成績が優秀、人物に優れ、理学療法学に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。	1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 選抜は、面接の結果及び調査書、推薦書、志願理由書等提出された書類により総合して行います。 3. 配点 面接(調査書、推薦書、志願理由書等を含む) 100点

実施学域・学類等名	医薬保健学域 保健学類 作業療法学専攻	
募集人員	5人	
	推薦要件	選抜方法等
	以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 学業成績が優秀、人物に優れ、作業療法学に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できる者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。	1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 選抜は、小論文、面接の結果及び調査書、推薦書、志願理由書等提出された書類により総合して行います。 小論文一人間・医療に関する科学的思考について800字以内で論述させます。 3. 配点 小論文 100点 面接(調査書、推薦書、志願理由書等を含む) 100点

(2) 出願期間

平成27年11月2日(月)～平成27年11月6日(金)

(3) 選抜期日

人間社会学域(人文学類, 学校教育学類, 地域創造学類): 平成27年11月28日(土)

人間社会学域(経済学類): 小論文 平成27年11月28日(土)

面接 平成27年11月29日(日)

人間社会学域(国際学類): 第2次選考 平成27年12月5日(土)

理工学域(自然システム学類): 平成27年11月28日(土)

医薬保健学域(保健学類): 平成27年11月28日(土)

(4) 合格者発表

人間社会学域(人文学類, 経済学類, 学校教育学類, 地域創造学類): 平成27年12月9日(水)

人間社会学域(国際学類): 平成27年12月16日(水)

理工学域(自然システム学類): 平成27年12月9日(水)

医薬保健学域(保健学類): 平成27年12月9日(水)

(5) その他

① 推薦入試に合格しなかった場合の取扱い

推薦入試に合格しなかった者のうち、一般入試(前期日程, 後期日程)で各学類が課す大学入試センター試験の教科・科目を受験した者で、所要の手続きにより一般入試(前期日程, 後期日程)に出願を行ったものに限り、一般の入学志願者と同様に一般入試(前期日程, 後期日程)の個別学力検査等を受験することができます。

② 原則として、入学後の転学類・転専攻等を認めません。

2 推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）

(1) 推薦要件，入学者選抜方法等

実施学域・学類等名	人間社会学域 法学類	大学入試センター試験の利用教科・科目名	
募集人員	15人	教科	科目名等
推薦要件			
以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で，平成28年度大学入学者選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者で，かつ，出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合，入学することを確約できる者 4. 推薦は，1校につき1名とします。		国 地歴 公民 数 外	国語 世B，日B，地理B } から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B，簿，情報，◎工から1 英，独，仏，中，韓から1 [4教科5科目]
選抜方法			
選抜は，大学入試センター試験の成績，面接の結果及び提出書類等(調査書，推薦書，志願理由書)により総合して行います。			

【法学類(推薦入試Ⅱ)】 注意事項

- 先頭に◎印を付した科目(◎工)は，旧教育課程履修者のための出題科目です。
- 42ページ「(5) その他」の留意事項を参照してください。

実施学域・学類等名	人間社会学域 学校教育学類 国語教育専修	大学入試センター試験の利用教科・科目名	
募集人員	3人	教科	科目名等
推薦要件			
以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で，平成28年度大学入学者選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者で，かつ，出身学校長が人物・能力等，特に教育職員に就くにふさわしい資質・適性について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合，入学することを確約できる者 4. 推薦は，1校につき1名とします。		国 地歴 公民 数 理 外 パターンA	国語 世B，日B，地理B } から2 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B，簿，情報，◎工から1 物基，化基，生基，地基から2 又は 物理，化学，生物，地学から1 英，独，仏，中，韓から1 [5教科7科目]，[5教科8科目]， [6教科7科目]又は[6教科8科目]
選抜方法			
選抜は，大学入試センター試験の成績，面接の結果及び提出書類等(調査書，推薦書，志願理由書)により総合して行います。		国 地歴 公民 数 理 外 パターンB	国語 世B，日B，地理B } から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B，簿，情報，◎工から1 物基，化基，生基，地基から2と 物理，化学，生物，地学から1 又は 物理，化学，生物，地学から2 英，独，仏，中，韓から1 [5教科7科目]又は[5教科8科目]

【学校教育学類(推薦入試Ⅱ)】 国語教育専修 注意事項

- 学校教育学類(推薦入試Ⅱ)国語教育専修における「大学入試センター試験の利用教科・科目名」は，パターンA又はパターンBのいずれかによる受験が必要です。
- パターンBの，「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について，同一名称を含む科目(例えば「物理基礎」と「物理」)を組み合わせることはできません。
- 『「地理歴史」「公民』』と「理科」で5科目受験している場合(つまり，『「地理歴史」「公民』』2科目+「理科」の「基礎を付した科目」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」1科目)，以下のように成績を用います。
 - 『「地理歴史」「公民』』の第1解答科目
 - 『「地理歴史」「公民』』の第2解答科目，「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「理科」の「基礎を付していない科目」1科目のうち，得点の高い順に2科目(「理科」の「基礎を付した科目」2科目を採用した場合は3科目)。
- 『「地理歴史」「公民』』と「理科」で4科目受験している場合(つまり，『「地理歴史」「公民』』2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」2科目)，以下のよう成績を用います。
 - 『「地理歴史」「公民』』の第1解答科目
 - 「理科」の第1解答科目
 - 『「地理歴史」「公民』』の第2解答科目のうち得点の高い科目
- 先頭に◎印を付した科目(◎工)は，旧教育課程履修者のための出題科目です。
- 42ページ「(5) その他」の留意事項を参照してください。

個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	理科	数学	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
その他	面接	センター試験	100	※100(100×1)			100	100					400
		個別学力検査等									400		400
		計	100	100			100	100			400		800

個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等												
教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	理科	数学	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計	
その他	面接	センター試験	パターンA	400	※200(100×2)		100	200	200				1100	
			パターンB	400	※100(100×1)		200	200	200				1100	
		個別学力検査等									200		200	
		計	パターンA	400	200		100	200	200			200		1300
			パターンB	400	100		200	200	200			200		

実施学域・学類等名	人間社会学域 学校教育学類 社会科教育専修	大学入試センター試験の利用教科・科目名	
募集人員	3人	教科	科目名等
推薦要件			
以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成28年度大学入学者選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。		国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理Bから1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [6教科8科目]
選抜方法			
選抜は、大学入試センター試験の成績、小論文の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。 小論文—社会科教育に関わる種々のテーマから出題し、800字程度で論述させます。			

【学校教育学類(推薦入試Ⅱ)】 社会科教育専修 注意事項

- (1) 先頭に◎印を付した科目(◎工)は、旧教育課程履修者のための出題科目です。
 (2) 42ページ「(5) その他」の留意事項を参照してください。

実施学域・学類等名	人間社会学域 学校教育学類 数学教育専修	大学入試センター試験の利用教科・科目名	
募集人員	3人	教科	科目名等
推薦要件			
以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成28年度大学入学者選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。		国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目]
選抜方法			
選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。			

【学校教育学類(推薦入試Ⅱ)】 数学教育専修 注意事項

- (1) 先頭に◎印を付した科目(◎工)は、旧教育課程履修者のための出題科目です。
 (2) 42ページ「(5) その他」の留意事項を参照してください。

実施学域・学類等名	人間社会学域 学校教育学類 理科教育専修	大学入試センター試験の利用教科・科目名	
募集人員	4人	教科	科目名等
推薦要件			
以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成28年度大学入学者選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。		国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物基, 化基, 生基, 地基から2と 物理, 化学, 生物, 地学から1 又は 物理, 化学, 生物, 地学から2 [5教科7科目] 又は [5教科8科目]
選抜方法			
選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。			

【学校教育学類(推薦入試Ⅱ)】 理科教育専修 注意事項

- (1) 「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について、同一名称を含む科目(例えば「物理基礎」と「物理」)を組み合わせることはできません。
 (2) 先頭に◎印を付した科目(◎工)は、旧教育課程履修者のための出題科目です。
 (3) 42ページ「(5) その他」の留意事項を参照してください。

個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	理科	数学	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
その他	小論文	センター試験	100	100	100	100	200	100					700
		個別学力検査等								300			300
		計	100	100	100	100	200	100	300				1000

個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	理科	数学	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
その他	面接	センター試験	100	※100(100×1)		100	200	100					600
		個別学力検査等									400		400
		計	100	100		100	200	100			400		1000

個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	理科	数学	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
その他	面接	センター試験	100	※100(100×1)		200	200	100					700
		個別学力検査等									300		300
		計	100	100		200	200	100			300		1000

個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	理科	数学	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
その他	実技 筆記 面接	センター試験	100					100					200
		個別学力検査等								50	100	350	500
		計	100						100		50	100	350

個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等												
教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	理科	数学	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計	
その他	面接 (スポーツ活動実績評価を含む)	センター試験	パターンA	200	※200(100×2)	100	200	200					900	
			パターンB	200	※100(100×1)	200	200	200					900	
		個別学力検査等									500		500	
		計	パターンA	200	200	100	200	200				500		1400
			パターンB	200	100	200	200	200				500		

実施学域・学類等名	人間社会学域 学校教育学類 家政教育専修	大学入試センター試験の利用教科・科目名	
募集人員	3人	教科	科目名等
推薦要件			
以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成28年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。		国 地歴 公民 数 理 外 パ タ ー ン A	国語 世B, 日B, 地理B } から2 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 又は 物理, 化学, 生物, 地学から1 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目], [5教科8科目], [6教科7科目] 又は [6教科8科目]
選抜方法			
選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。		国 地歴 公民 数 理 外 パ タ ー ン B	国語 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物基, 化基, 生基, 地基から2と 物理, 化学, 生物, 地学から1 又は 物理, 化学, 生物, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目] 又は [5教科8科目]

【学校教育学類(推薦入試Ⅱ) 家政教育専修 注意事項

- 学校教育学類(推薦入試Ⅱ) 家政教育専修における「大学入試センター試験の利用教科・科目名」は、パターンA又はパターンBのいずれかによる受験が必要です。
- パターンBの、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について、同一名称を含む科目(例えば「物理基礎」と「物理」)を組み合わせることはできません。
- 『「地理歴史」「公民』』と「理科」で5科目受験している場合(つまり、『「地理歴史」「公民』』2科目+「理科」の「基礎を付した科目」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」1科目)、以下のように成績を用います。
 - 『「地理歴史」「公民』』の第1解答科目
 - 『「地理歴史」「公民』』の第2解答科目、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「理科」の「基礎を付していない科目」1科目のうち、得点の高い順に2科目(「理科」の「基礎を付した科目」2科目を採用した場合は3科目)。

実施学域・学類等名	人間社会学域 学校教育学類 英語教育専修	大学入試センター試験の利用教科・科目名	
募集人員	3人	教科	科目名等
推薦要件			
以下の1から4のすべての条件を満たす者 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者で、平成28年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき1名とします。		国 地歴 公民 数 理 外 パ タ ー ン A	国語 世B, 日B, 地理B } から2 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 又は 物理, 化学, 生物, 地学から1 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目], [5教科8科目], [6教科7科目] 又は [6教科8科目]
選抜方法			
選抜は、大学入試センター試験の成績、小論文、面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)により総合して行います。 小論文—英語や英語教育に関わる種々のテーマから出題し、300語程度の英語で論述させます。 面接—英語による面接を含みます。		国 地歴 公民 数 理 外 パ タ ー ン B	国語 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物基, 化基, 生基, 地基から2と 物理, 化学, 生物, 地学から1 又は 物理, 化学, 生物, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目] 又は [5教科8科目]

【学校教育学類(推薦入試Ⅱ) 英語教育専修 注意事項

- 学校教育学類(推薦入試Ⅱ) 英語教育専修における「大学入試センター試験の利用教科・科目名」は、パターンA又はパターンBのいずれかによる受験が必要です。
- パターンBの、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について、同一名称を含む科目(例えば「物理基礎」と「物理」)を組み合わせることはできません。
- 『「地理歴史」「公民』』と「理科」で5科目受験している場合(つまり、『「地理歴史」「公民』』2科目+「理科」の「基礎を付した科目」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」1科目)、以下のように成績を用います。
 - 『「地理歴史」「公民』』の第1解答科目
 - 『「地理歴史」「公民』』の第2解答科目、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「理科」の「基礎を付していない科目」1科目のうち、得点の高い順に2科目(「理科」の「基礎を付した科目」2科目を採用した場合は3科目)。

個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等												
教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	理科	数学	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計	
その他	面接	センター試験	パターンA	200	※200(100×2)		100	200	200				900	
			パターンB	200	※100(100×1)		200	200	200				900	
		個別学力検査等										300		300
		計	パターンA	200	200		100	200	200			300		1200
			パターンB	200	100		200	200	200			300		

(4) 『「地理歴史」「公民」と「理科」で4科目受験している場合（つまり、『「地理歴史」「公民」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」2科目）』、以下のよ
うに成績を用います。

- ① 『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目
- ② 「理科」の第1解答科目
- ③ 『「地理歴史」「公民」』及び「理科」の第2解答科目のうち得点の高い科目

(5) 先頭に◎印を付した科目（◎工）は、旧教育課程履修者のための出題科目です。

(6) 42ページ「(5) その他」の留意事項を参照してください。

個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等												
教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	理科	数学	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計	
その他	小論文 面接	センター試験	パターンA	200	※200(100×2)		100	200	200				900	
			パターンB	200	※100(100×1)		200	200	200				900	
		個別学力検査等										300	300	600
		計	パターンA	200	200		100	200	200			300	300	1500
			パターンB	200	100		200	200	200			300	300	

(4) 『「地理歴史」「公民」と「理科」で4科目受験している場合（つまり、『「地理歴史」「公民」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」2科目）』、以下のよ
うに成績を用います。

- ① 『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目
- ② 「理科」の第1解答科目
- ③ 『「地理歴史」「公民」』及び「理科」の第2解答科目のうち得点の高い科目

(5) 先頭に◎印を付した科目（◎工）は、旧教育課程履修者のための出題科目です。

(6) 42ページ「(5) その他」の留意事項を参照してください。

実施学域・学類等名	人間社会学域 地域創造学類 地域プランニングコース	大学入試センター試験の利用教科・科目名	
募集人員	4人	教科	科目名等
推薦要件			
以下の1から4のすべての条件を満たす者で、平成28年度大学入学者選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者で、かつ、人物及び学業成績が優秀で、地域プランニングコースでの勉学に強い意欲を持ち、出身学校長が責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。		パターンA	国語 世B, 日B, 地理B } から2 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 又は 物理, 化学, 生物, 地学から1 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目], [5教科8科目], [6教科7科目] 又は [6教科8科目]
選抜方法			
選抜は、大学入試センター試験の成績、面接の結果及び提出書類等(調査書, 推薦書, 志願理由書)により総合して行います。 なお、調査書, 推薦書は面接の際に参考とします。		パターンB	国語 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物基, 化基, 生基, 地基から2と 物理, 化学, 生物, 地学から1 又は 物理, 化学, 生物, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目] 又は [5教科8科目]

【地域創造学類(推薦入試Ⅱ)】 地域プランニングコース 注意事項

- 地域創造学類(推薦入試Ⅱ) 地域プランニングコースにおける「大学入試センター試験の利用教科・科目名」は、パターンA又はパターンBのいずれかによる受験が必要です。
- パターンBの、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について、同一名称を含む科目(例えば「物理基礎」と「物理」)を組み合わせることはできません。
- 『「地理歴史」「公民』と「理科」で5科目受験している場合(つまり、『「地理歴史」「公民』2科目+「理科」の「基礎を付した科目」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」1科目)、以下のように成績を用います。
 - 『「地理歴史」「公民』の第1解答科目
 - 『「地理歴史」「公民』の第2解答科目、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「理科」の「基礎を付していない科目」1科目のうち、得点の高い順に2科目(「理科」の「基礎を付した科目」2科目を採用した場合は3科目)。

実施学域・学類等名	人間社会学域 地域創造学類 健康スポーツコース	大学入試センター試験の利用教科・科目名	
募集人員	8人	教科	科目名等
推薦要件			
以下の1から4のすべての条件を満たす者で、平成28年度大学入学者選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの 1. 次の(1)か(2)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が、次のいずれにも該当すると認め、責任を持って推薦できる者 (1) 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がB段階以上(評定平均3.5以上)に該当する者 (2) 高等学校若しくは中等教育学校後期課程において、スポーツ活動に積極的に取り組み、出願時までにスポーツ競技大会において優れた成績を修めた者 (3) 人物に優れ、社会における健康スポーツの充実・発展に貢献する熱意を有する者 3. 合格した場合、入学することを確約できる者 4. 推薦は、1校につき2名以内とします。		パターンA	国語 世B, 日B, 地理B } から2 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物基, 化基, 生基, 地基から2 又は 物理, 化学, 生物, 地学から1 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目], [5教科8科目], [6教科7科目] 又は [6教科8科目]
選抜方法			
選抜は、大学入試センター試験の成績、面接及びスポーツ活動に関する調査書の結果を総合して行います。 なお、調査書, 推薦書は面接の際に参考とします。		パターンB	国語 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物基, 化基, 生基, 地基から2と 物理, 化学, 生物, 地学から1 又は 物理, 化学, 生物, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目] 又は [5教科8科目]

【地域創造学類(推薦入試Ⅱ)】 健康スポーツコース 注意事項

- 地域創造学類(推薦入試Ⅱ) 健康スポーツコースにおける「大学入試センター試験の利用教科・科目名」は、パターンA又はパターンBのいずれかによる受験が必要です。
- パターンBの、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「基礎を付していない科目」1科目について、同一名称を含む科目(例えば「物理基礎」と「物理」)を組み合わせることはできません。
- 『「地理歴史」「公民』と「理科」で5科目受験している場合(つまり、『「地理歴史」「公民』2科目+「理科」の「基礎を付した科目」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」1科目)、以下のように成績を用います。
 - 『「地理歴史」「公民』の第1解答科目
 - 『「地理歴史」「公民』の第2解答科目、「理科」の「基礎を付した科目」2科目及び「理科」の「基礎を付していない科目」1科目のうち、得点の高い順に2科目(「理科」の「基礎を付した科目」2科目を採用した場合は3科目)。

個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等												
教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	理科	数学	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計	
その他	面接	センター試験	パターンA	200	※200(100×2)		100	200	200					900
			パターンB	200	※100(100×1)		200	200	200					900
		個別学力検査等										400		400
		計	パターンA	200	200		100	200	200			400		1300
			パターンB	200	100		200	200	200			400		

- (4) 『「地理歴史」「公民」と「理科」で4科目受験している場合（つまり、『「地理歴史」「公民」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」2科目）』、以下のよ
うに成績を用います。
- ① 『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目
 - ② 「理科」の第1解答科目
 - ③ 『「地理歴史」「公民」』及び「理科」の第2解答科目のうち得点の高い科目
- (5) 先頭に◎印を付した科目（◎工）は、旧教育課程履修者のための出題科目です。
- (6) 42ページ「(5) その他」の留意事項を参照してください。

個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等												
教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	理科	数学	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	スポーツ活動に関する調査書	配点合計	
その他	面接 スポーツ活動に関する調査書	センター試験	パターンA	200	※200(100×2)		100	200	200					900
			パターンB	200	※100(100×1)		200	200	200					900
		個別学力検査等										150	300	450
		計	パターンA	200	200		100	200	200			150	300	1350
			パターンB	200	100		200	200	200			150	300	

- (4) 『「地理歴史」「公民」と「理科」で4科目受験している場合（つまり、『「地理歴史」「公民」2科目+「理科」の「基礎を付していない科目」2科目）』、以下のよ
うに成績を用います。
- ① 『「地理歴史」「公民」』の第1解答科目
 - ② 「理科」の第1解答科目
 - ③ 『「地理歴史」「公民」』及び「理科」の第2解答科目のうち得点の高い科目
- (5) 先頭に◎印を付した科目（◎工）は、旧教育課程履修者のための出題科目です。
- (6) 42ページ「(5) その他」の留意事項を参照してください。

実施学域・学類等名	医薬保健学域 医学類(一般枠)	大学入試センター試験の利用教科・科目名	
募集人員	15人	教科	科目名等
推薦要件		国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物理と化学 英 [5教科7科目]
以下の1から3のすべての条件を満たす者で、平成28年度大学入学者選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの			
1. 次の(1)か(2)のいずれかに該当する者 (1)高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2)通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がA段階以上(評定平均4.3以上)に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者			
選抜方法			
1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、口頭試問による面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)を総合して行います。 <u>ただし、志願者数が募集人員に対して2倍程度を超えた場合には、大学入試センター試験の配点による成績の総得点により第1次選考を行うことがあります。</u> その場合は、第1次選考合格者についてのみ第2次選考(口頭試問による面接)を実施します。 なお、本学類が課す大学入試センター試験(800点満点)の得点が概ね680点(85%)以上を合格の基準とします。 2. 第1次選考結果は、平成28年2月4日(木)に本人あて通知します。			

【医学類(推薦入試Ⅱ)】 一般枠 注意事項

- 先頭に◎印を付した科目(◎工)は、旧教育課程履修者のための出題科目です。
- 42ページ「(5) その他」の留意事項を参照してください。

実施学域・学類等名	医薬保健学域 医学類(特別枠)	大学入試センター試験の利用教科・科目名	
募集人員	石川県枠10人 富山県枠2人	教科	科目名等
推薦要件		国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数Ⅰ・数Aと 数Ⅱ・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物理と化学 英 [5教科7科目]
以下の1から3のすべての条件を満たす者で、平成28年度大学入学者選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの			
1. 次の(1)か(2)のいずれかに該当する者 (1)高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2)通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 2. 出身学校長が発行する調査書の学習成績概評がA段階以上(評定平均4.3以上)に該当する者で、かつ、出身学校長が人物・能力等について責任を持って推薦できるもの 3. 合格した場合、入学することを確約できる者			
選抜方法			
1. 選抜は、大学入試センター試験の成績、口頭試問による面接の結果及び提出書類等(調査書、推薦書、志願理由書)を総合して行います。 <u>ただし、志願者数が募集人員に対して3倍程度を超えた場合には、大学入試センター試験の配点による成績の総得点により第1次選考を行うことがあります。</u> その場合は、第1次選考合格者についてのみ第2次選考(口頭試問による面接)を実施します。 なお、本学類が課す大学入試センター試験(800点満点)の得点が概ね680点(85%)以上を合格の基準とします。 2. 第1次選考結果は、平成28年2月4日(木)に本人あて通知します。			

【医学類(推薦入試Ⅱ)】 特別枠(石川県枠・富山県枠) 注意事項

- 先頭に◎印を付した科目(◎工)は、旧教育課程履修者のための出題科目です。
- 42ページ「(5) その他」の留意事項を参照してください。

※石川県枠について

- 将来、石川県の地域医療をリードする指導的人材の育成を目的としています。
- 出身高校の所在地に関わらず、石川県の地域医療に貢献する強い意志を持ち、石川県知事からの推薦があり、入学後は、石川県の修学資金の貸与を受ける者を対象とします。
 また、卒業後は、指定された臨床研修病院で臨床研修を行った後、石川県知事が貸与生ごとに指定する石川県内の医療機関において、7年間診療に従事することになります。

※富山県枠について

- 将来、富山県の地域医療をリードする指導的人材の育成を目的としています。
- 出身高校の所在地に関わらず、富山県の地域医療に貢献する強い意志を持ち、富山県知事からの推薦があり、入学後は、富山県の修学資金の貸与を受ける者を対象とします。
 また、卒業後は、指定された臨床研修病院で臨床研修を行った後、富山県知事が貸与生ごとに指定する富山県内の医療機関において、地域医療に必要な診療科(小児科、小児外科、産科、麻酔科、救急科、総合診療科)で9年間診療に従事することになります。

特別枠(石川県枠、富山県枠)で不合格であっても、予め、一般枠を第2志望とした者については、一般枠の選考対象とします。

なお、石川県枠と富山県枠の併願は認められません。

個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	理科	数学	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
その他	面接 (口頭試問)	センター試験	100	※100(100×1)		200	200	200					800
		個別学力検査等									200		200
		計	100	100		200	200	200			200		1000

個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	理科	数学	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
その他	面接 (口頭試問)	センター試験	100	※100(100×1)		200	200	200					800
		個別学力検査等									200		200
		計	100	100		200	200	200			200		1000

実施学域・学類等名	医薬保健学域 保健学類 放射線技術科学専攻	大学入試センター試験の利用教科・科目名	
募集人員	6人	教科	科目名等
推薦要件			
以下の1から4のすべての条件を満たす者で、平成28年度大学入学者選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの		国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目]
1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者			
2. 学業成績が優秀, 人物に優れ, 放射線技術科学に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち, 出身学校長が責任を持って推薦できる者			
3. 合格した場合, 入学することを確約できる者 4. 推薦は1校につき1名とします。			
選抜方法			
選抜は, 大学入試センター試験の成績, 面接の結果及び提出書類等(調査書, 推薦書, 志願理由書)により総合して行います。			

【保健学類(推薦入試II) 放射線技術科学専攻 注意事項

- (1) 先頭に◎印を付した科目(◎工)は, 旧教育課程履修者のための出題科目です。
(2) 42ページ「(5) その他」の留意事項を参照してください。

実施学域・学類等名	医薬保健学域 保健学類 検査技術科学専攻	大学入試センター試験の利用教科・科目名	
募集人員	6人	教科	科目名等
推薦要件			
以下の1から4のすべての条件を満たす者で、平成28年度大学入学者選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの		国 地歴 公民 数 理 外	国語 世B, 日B, 地理B } から1 倫・政経 数I・数Aと 数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1 物理, 化学, 生物, 地学から2 英, 独, 仏, 中, 韓から1 [5教科7科目]
1. 次の(1)から(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校若しくは中等教育学校を平成27年4月から平成28年3月までに卒業又は卒業見込みの者 (2) 通常の課程による12年の学校教育を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者 (3) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を平成27年4月から平成28年3月までに修了又は修了見込みの者			
2. 学業成績が優秀, 人物に優れ, 検査技術科学に対する明確な志向と勉学の熱意を持ち, 出身学校長が責任を持って推薦できる者			
3. 合格した場合, 入学することを確約できる者 4. 推薦は1校につき1名とします。			
選抜方法			
選抜は, 大学入試センター試験の成績, 面接の結果及び提出書類等(調査書, 推薦書, 志願理由書)により総合して行います。			

【保健学類(推薦入試II) 検査技術科学専攻 注意事項

- (1) 先頭に◎印を付した科目(◎工)は, 旧教育課程履修者のための出題科目です。
(2) 42ページ「(5) その他」の留意事項を参照してください。

(2) 出願期間

人間社会学域(法学類, 学校教育学類, 地域創造学類), 医薬保健学域(医学類, 保健学類)
平成27年12月14日(月)～平成27年12月18日(金)

(3) 選抜期日

人間社会学域(法学類, 学校教育学類, 地域創造学類), 医薬保健学域(保健学類): 平成28年1月30日(土)
医薬保健学域(医学類): 第2次選考 平成28年2月8日(月)

(4) 合格者発表

人間社会学域(法学類, 学校教育学類, 地域創造学類), 医薬保健学域(保健学類): 平成28年2月8日(月)
医薬保健学域(医学類): 第2次選考 平成28年2月10日(水)

(5) その他

【留意事項】

① 推薦入試に合格しなかった場合の取扱い

推薦入試に合格しなかった者のうち, 一般入試(前期日程, 後期日程)で各学類が課す大学入試センター試験の教科・科目を受験した者で, 所要の手続きにより一般入試(前期日程, 後期日程)に出願を行ったものに限り, 一般の入学志願者と同様に一般入試(前期日程, 後期日程)の個別学力検査等を受験することができます。

② 大学入試センター試験について

ア 配点に※印を付してある教科は, 選択教科を表します。

個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	理科	数学	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
その他	面接 (調査書, 推薦書, 志願理由書等を含む)	センター試験	200	※100(100×1)		200	200	200					900
		個別学力検査等									400		400
		計	200	100		200	200	200			400		1300

個別学力検査等		大学入試センター試験・個別学力検査等の配点等											
教科等	科目名等	試験の区分	国語	地歴	公民	理科	数学	外国語	小論文	筆記	面接・口述試験	実技	配点合計
その他	面接 (調査書, 推薦書, 志願理由書等を含む)	センター試験	200	※100(100×1)		200	200	200					900
		個別学力検査等									200		200
		計	200	100		200	200	200			200		1100

イ 先頭に◎印を付した科目(◎工)は、旧教育課程履修者のための出題科目です。詳細は、17ページの「9. 旧教育課程履修者に対する経過措置」を参照してください。

ウ 指定した教科・科目数を超えて受験している場合は、指定した教科・科目数の範囲で高得点の順に教科・科目の成績を採用します。ただし、『「地理歴史」「公民」』の受験科目を1科目と指定した学類において2科目受験している場合及び「理科」の受験科目を1科目と指定した学類において2科目受験している場合は、それぞれ受験した科目のうち第1解答科目の成績を採用します。

なお、**第1解答科目が指定した科目以外の場合は失格**となります。

(『「地理歴史」「公民」』及び「理科②」の試験時間において2科目を選択する場合、解答順に前半に受験した科目を第1解答科目、後半に受験した科目を第2解答科目とします。)

エ 「数学」のうち「簿」、「情報」、◎「工」を選択できる者は、高等学校若しくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者に限ります。

オ 「英語」にはリスニングテストが含まれており、成績は、筆記試験(200点満点)とリスニングテスト(50点満点)の合計得点を200点満点となるように圧縮し、他の外国語と比較できるようにして利用します。

なお、「英語」のリスニングテストが免除となる重度難聴者については、英語の筆記試験の成績(200点満点)を圧縮せずに利用します。

また、入学者選抜の配点にあたっては、学域学類等に示されているセンター試験の「外国語」の配点に換算します。

カ 人間社会学域学校教育学類(社会科教育専修又は数学教育専修)の「理科」について、「基礎を付していない科目」(「物理」、「化学」、「生物」、「地学」)から2科目を選択した場合、基礎を付した2科目を選択したものと見なし、合計得点(200点満点)を100点満点に換算して利用します。

③ 原則として、入学後の転学類・転専修等を認めません。

6

帰国子女入試

(1) 出願資格

日本の国籍を有する者及び日本国の永住許可を得ている者で、保護者の海外勤務等の事情により保護者とともに外国に在留し、外国で学校教育を受けた者のうち、次のいずれかに該当するもの

- ① 外国の教育制度に基づく教育機関において12年の課程のうち、日本の高等学校に相当する学校に最終学年を含め2学年以上継続して在学し、平成26年4月から平成28年3月までに卒業（修了）した者及び卒業（修了）見込みの者
- ② 外国の教育制度に基づく教育機関において2学年以上継続して学校教育を受け、引き続き、日本の高等学校若しくは中等教育学校後期課程の第3学年に編入学した者で平成28年3月までに卒業見込みのもの
- ③ スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格証書を平成26年4月から平成28年3月までに授与された者及び授与見込みの者で平成28年3月31日までに18歳に達するもの
- ④ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成26年4月から平成28年3月までに取得した者及び取得見込みの者で平成28年3月31日までに18歳に達するもの
- ⑤ フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成26年4月から平成28年3月までに取得した者及び取得見込みの者で平成28年3月31日までに18歳に達するもの

- (注) 1. 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程における教育の期間は、外国の教育制度に基づく教育機関における教育の期間には含みません。
 2. 保護者の帰国に同伴せず、保護者が帰国した後、本人が帰国するまでの滞在期間が1年以上経過した者は出願できません。

(2) 入学者選抜方法等

帰国子女1

実施学域・学類名	人間社会学域 人文学類
募集人員	若干名
選抜方法等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)、面接の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 国(国語総合) 外(英(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ), 独, 仏, 中から1)

帰国子女3

実施学域・学類名	人間社会学域 経済学類
募集人員	若干名
選抜方法等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 選抜は、小論文、成績証明書(調査書)、推薦書、志願理由書及び面接の結果を総合して行います。小論文は以下の小論文Ⅰと小論文Ⅱからなります。 小論文Ⅰ：帰国子女入試(小論文Ⅰ実施日)前日から過去5年間に発行された<i>Economist</i>, <i>Fortune</i>に掲載された英文の記事や論説から出題し、出題された論題について800字程度で論述させます。なお、英和辞典を貸与します。 小論文Ⅱ：現代の文化・社会・経済に関する和文の資料を与え、出題された論題について800字程度で論述させます。

帰国子女2

実施学域・学類名	人間社会学域 法学類
募集人員	若干名
選抜方法等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)、面接の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 国(国語総合)の内の現代文

帰国子女4

実施学域・学類名	人間社会学域 地域創造学類
募集人員	若干名
選抜方法等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 選抜は、小論文、面接の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 小論文—地域創造に関することを論述させます。

実施学域・学類名	人間社会学域 国際学類
募集人員	若干名
選抜方法等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除します。 2. 第1次選考 提出された書類の審査、外部試験の成績 外部試験—TOEFL, TOEIC, 英語検定, 国連英語検定, ケンブリッジ英語検定, IELTSのいずれかのスコア 3. 第1次選考結果は、平成27年11月18日(水)に本人あて通知します。 4. 第2次選考 第1次選考に合格した者に対して面接を実施します。 なお、調査書は面接の参考とします。 5. 合否判定 第1次選考(100点満点)と第2次選考(100点満点)の結果を総合して行います。

実施学域・学類名	理工学域 機械工学類
募集人員	若干名
選抜方法等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B) 理(物基・物理) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ)

実施学域・学類名	理工学域 数物科学類
募集人員	若干名
選抜方法等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)、面接の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B)

実施学域・学類名	理工学域 電子情報学類
募集人員	若干名
選抜方法等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B) 理(物基・物理) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ)

実施学域・学類名	理工学域 物質化学類
募集人員	若干名
選抜方法等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B) 理(化基・化学) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ)

実施学域・学類名	理工学域 環境デザイン学類
募集人員	若干名
選抜方法等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B) 理(物基・物理, 化基・化学から1) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ)

実施学域・学類名	理工学域 自然システム学類
募集人員	若干名
選抜方法等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B) 理(物基・物理, 化基・化学, 生基・生物, 地基・地学から1) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ)

実施学域・学類名	医薬保健学域 薬学類・創薬科学類
募集人員	若干名
選抜方法等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程), 面接の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B) 理(物基・物理)と(化基・化学) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ)
その他	薬学類(6年制), 創薬科学類(4年制)の選抜は一括で実施します。各学類への所属は3年次後期からとなります。

実施学域・学類名	医薬保健学域 医学類
募集人員	若干名
選抜方法等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程), 面接の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B) 理(物基・物理)と(化基・化学) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ)

実施学域・学類名	医薬保健学域 保健学類(看護学専攻, 放射線技術科学専攻, 検査技術科学専攻, 理学療法専攻, 作業療法専攻)
募集人員	若干名
選抜方法等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学入試センター試験を免除します。 2. 選抜は、個別学力検査(前期日程)の結果及び成績証明書(調査書)等提出された書類により総合して行います。 3. 個別学力検査(前期日程)で課す教科・科目名 理(物基・物理, 化基・化学, 生基・生物から1) 外(コ英Ⅱ・コ英Ⅲ・英表Ⅰ・英表Ⅱ)

(3) 出願期間

人間社会学域(経済学類, 国際学類): 平成27年10月26日(月)~平成27年10月30日(金)

人間社会学域(人文学類, 法学類, 地域創造学類), 理工学域, 医薬保健学域: 平成28年1月19日(火)~平成28年1月22日(金)

(4) 選抜期日

人間社会学域(経済学類): 小論文 平成27年11月28日(土)

面接 平成27年11月29日(日)

人間社会学域(国際学類): 第2次選考 平成27年12月5日(土)

人間社会学域(人文学類, 法学類, 地域創造学類), 理工学域, 医薬保健学域(保健学類): 平成28年2月25日(木)

医薬保健学域(医学類, 薬学類・創薬科学類): 平成28年2月25日(木)~平成28年2月26日(金)

(5) 合格者発表

人間社会学域(経済学類): 平成27年12月9日(水)

人間社会学域(国際学類): 平成27年12月16日(水)

人間社会学域(人文学類, 法学類, 地域創造学類), 理工学域, 医薬保健学域: 平成28年3月8日(火)

(6) その他

帰国子女入試に合格しなかった場合の取扱い

帰国子女入試人間社会学域(経済学類, 国際学類)に合格しなかった者のうち, 一般入試(前期日程, 後期日程)で各学類が課す大学入試センター試験の教科・科目を受験した者で, 所要の手続きにより一般入試(前期日程, 後期日程)に出願を行ったものに限り, 一般の入学志願者と同様に一般入試(前期日程, 後期日程)の個別学力検査等を受験することができます。

7 アドミッション・オフィス入試 (AO 入試)

(1) 出願資格、選抜方法等

AO

実施学域・学類等名	医薬保健学域 薬学類・創薬科学類																				
募集人員	5人																				
出願資格	<p>次の1から4のいずれかに該当し、合格した場合は入学することを確約できる者で、平成28年度大学入学選抜大学入試センター試験で課す教科・科目を受験するもの</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者及び平成28年3月までに卒業見込みの者 2. 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成28年3月までに修了見込みの者 3. 学校教育法施行規則第150条第1号から第5号の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成28年3月31日までにこれに該当する見込みの者 4. 学校教育法施行規則第150条第7号の規定により、本学において、個別の入学資格審査により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成28年3月31日までに18歳に達するもの 																				
選抜方法等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 選抜は、第1次選考及び最終選考により行います。 大学入試センター試験で本学類が課す教科・科目のすべてを受験しなければ、失格となります。 2. 第1次選考 提出された調査書、その他の書類により、書類選考を行います。 3. 第1次選考結果は、平成27年11月6日(金)に本人あて通知します。 4. 最終選考 第1次選考の合格者に対し、2日間にわたるスクーリングならびに大学入試センター試験により選考します。本学類が課す大学入試センター試験(800点満点)の得点が概ね640点(80%)以上を合格の基準とし、レポートと口述試験の得点の高い者を合格者とします。 <ol style="list-style-type: none"> ①スクーリング <ol style="list-style-type: none"> 1日目：受講した演示実験又は課された実験課題などについて、レポートを作成させ、提出させます。レポート作成後は、自己推薦書を記入させ、提出させます。(口述試験の際の参考とします。) 2日目：1日目に提出されたレポートに基づいて、口述試験を実施します。数学・理科・英語などに対する勉学意欲ならびに目的意識について多方面から評価します。 ②大学入試センター試験 本学類が課す教科・科目を必ず受験してください。 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td colspan="2">大学入試センター試験で課す教科・科目名</td> </tr> <tr> <td>国(国語)</td> <td>100点</td> </tr> <tr> <td>地歴(世B, 日B, 地理B)</td> <td rowspan="2">}から1</td> </tr> <tr> <td>公民(倫・政経)</td> <td>100点</td> </tr> <tr> <td>数(数I・数A)と (数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1)</td> <td>200点</td> </tr> <tr> <td>理(物理と化学)</td> <td>200点</td> </tr> <tr> <td>外(英, 独, 仏, 中, 韓から1)</td> <td>200点</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>800点</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">[5教科7科目]</p> 5. 配点 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>レポート</td> <td>100点</td> </tr> <tr> <td>口述試験</td> <td>50点</td> </tr> </table> 	大学入試センター試験で課す教科・科目名		国(国語)	100点	地歴(世B, 日B, 地理B)	}から1	公民(倫・政経)	100点	数(数I・数A)と (数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1)	200点	理(物理と化学)	200点	外(英, 独, 仏, 中, 韓から1)	200点	合計	800点	レポート	100点	口述試験	50点
大学入試センター試験で課す教科・科目名																					
国(国語)	100点																				
地歴(世B, 日B, 地理B)	}から1																				
公民(倫・政経)		100点																			
数(数I・数A)と (数II・数B, 簿, 情報, ◎工から1)	200点																				
理(物理と化学)	200点																				
外(英, 独, 仏, 中, 韓から1)	200点																				
合計	800点																				
レポート	100点																				
口述試験	50点																				

(2) 出願期間

平成27年10月19日(月)～平成27年10月23日(金)

(3) 選抜期日

最終選考：平成27年11月28日(土)～

平成27年11月29日(日)

(4) 合格者発表

平成28年2月8日(月)

(5) その他

- ① 薬学類(6年制)と創薬科学類(4年制)の選抜は一括で実施します。各学類への所属は3年次後期からとなります。
- ② AO入試に合格しなかった場合の取扱い
AO入試に合格しなかった者のうち、一般入試(前期日程, 後期日程)で各学類が課す大学入試センター試験の教科・科目を受験した者で、所要の手続きにより一般入試(前期日程, 後期日程)に出願を行った者に限り、一般の入学志願者と同様に一般入試(前期日程, 後期日程)の個別学力検査等を受験することができます。
- ③ 原則として、入学後の転学類を認めません。
- ④ 大学入試センター試験について
 1. 大学入試センター試験の『「地理歴史」「公民」』の受験科目について、2科目受験している場合は、受験した科目のうち、第1解答科目の成績を採用します。なお、第1解答科目が指定した科目以外の場合は失格となります。
(『「地理歴史」「公民」』の試験時間において2科目を選択する場合、解答順に前半に受験した科目を第1解答科目、後半に受験した科目を第2解答科目とします。)
 2. 「数学」の「簿」「情報」「◎工」を選択できる者は、高等学校若しくは中等教育学校において、これらの科目を履修したものに限ります。
 3. 「英語」にはリスニングテストが含まれており、成績は筆記試験(200点満点)とリスニングテスト(50点満点)の合計得点を200点満点となるように圧縮し、他の外国語と比較できるようにして利用します。なお、リスニングテストが免除となる重度難聴者については、「英語」の筆記試験の成績(200点満点)を圧縮せずに利用します。
 4. 先頭に◎印を付した科目(◎工)は、旧教育課程履修者のための出題科目です。詳細は、17ページの「9. 旧教育課程履修者に対する経過措置」を参照してください。

8 私費外国人留学生入試

(1) 募集人員

各学域学類とも若干名

(2) 出願資格

日本の国籍を有しない者で、次の各号に該当するもの

- ① 次のいずれかに該当する者
 - ア 外国において学校教育における12年の課程を修了した者及び平成28年（2016年）3月までに修了見込みの者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
 - イ スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局から国際バカロレア資格証書を平成28年（2016年）3月までに授与された者及び授与見込みの者で平成28年（2016年）3月31日までに18歳に達するもの
 - ウ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を平成28年（2016年）3月までに取得した者及び取得見込みの者で平成28年（2016年）3月31日までに18歳に達するもの
 - エ フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を平成28年（2016年）3月までに取得した者及び取得見込みの者で平成28年（2016年）3月31日までに18歳に達するもの
- ② 独立行政法人日本学生支援機構が実施する平成26年度（2014年度）又は平成27年度（2015年度）日本留学試験を受験した者（薬学類及び創薬科学類を除きます。）

注意事項

入学後は「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定める在留資格（原則として「留学」）の取得が必要です。「留学」以外の日本に長期で滞在できる在留資格でも入学・在学することはできますが、その場合、「留学」の在留資格を対象にした各種助成制度を利用できません。また、短期滞在ビザで大学に在籍し続けることはできません。

(3) 入学者選抜方法等

- ① 大学入試センター試験を免除し、平成26年度（2014年度）又は平成27年度（2015年度）日本留学試験（薬学類及び創薬科学類を除く）、学力検査等の成績及び書類審査の結果を総合して日本人とは異なる基準により選抜します。

学力検査等の科目は、次ページのとおりです。

志望する学域学類等が課す日本留学試験及び個別学力検査等をすべて受験しなければ失格となります。
- ② 出願期日等の詳細は、平成28年度金沢大学学生募集要項（推薦入試、帰国子女入試、私費外国人留学生入試）を参照してください。

(4) 出願期間

平成28年1月19日（火）～平成28年1月22日（金）

(5) 選抜期日

人間社会学域	平成28年2月25日（木）
理工学域	平成28年2月26日（金）
医薬保健学域（医学類、薬学類・創薬科学類）	平成28年2月25日（木）～平成28年2月26日（金）
医薬保健学域（保健学類）	平成28年2月25日（木）

(6) 合格者発表

平成28年3月8日（火）

学域・学類等名	日本留学試験の利用する教科・科目等						英語能力	学力検査等				
	日本語	総合科目	数学	理 科					出題言語	利用試験 (注2参照)		
				物理	化学	生物						
人間社会学域	人文学類						日本語 又は 英語	TOEFL	国語(国総)の内の現代文 面接			
	法学類	◎	◎	◎ コース1又は コース2より 選択			日本語		小論文と面接			
	経済学類											
	学校教育学類	◎	◎	◎ コース1又は コース2より 選択				日本語 又は 英語	6月 又は 11月	学力検査等で外国語を課す。(コ英II・コ英III・英表I・英表II) 国語(国総) 数学(数I・数II・数A・数B) 理科(物基・物理、化基・化学、 生基・生物、地基・地学 から1) 外国語(コ英II・コ英III・英表I・ 英表II) 面接		
		◎		又は ◎ コース1又は コース2より 選択	◎	◎	◎				2科目選択	
	地域創造学類											
国際学類	◎	◎	◎ コース1又は コース2より 選択				日本語	TOEFL	小論文と面接			
理工学域	数物科学類	◎		◎ コース2	◎			日本語 又は 英語	6月 又は 11月	TOEFL	面接	
	物質化学類											
	機械工学類	◎		◎ コース2	◎	◎						
	電子情報学類											
	環境デザイン学類											
	自然システム学類	◎		◎ コース2	◎	◎	◎					2科目選択
医薬保健学域	医学類	◎		◎ コース2	◎	◎	◎	日本語	6月 又は 11月	TOEFL	数学(数I・数II・数III・数A・数B) 理科(物基・物理と化基・化学) 面接	
	薬学類 創薬科学類			課さない							TOEFL	数学(数I・数II・数III・数A・数B) 理科(物基・物理と化基・化学) 外国語(コ英II・コ英III・英表I・ 英表II) 面接
	保健学類	◎		◎ コース2	◎	◎	◎	日本語	6月 又は 11月		小論文と面接	

- (注) 1. ◎は必須科目, ○は選択科目を示します。
2. 日本留学試験は、平成26年度(2014年度)又は平成27年度(2015年度)の6月及び11月のいずれか1回の成績を利用します。
3. 医薬保健学域の薬学類(6年制)と創薬科学類(4年制)の選抜は一括で実施します。各学類への所属は3年次後期からとなります。

9 障がいのある者等の出願

本学に入学を志願する者で、障がい等があり、受験及び修学上の配慮を必要とする場合は、出願に先立ち、本学に事前相談書等を提出し、相談してください。

なお、体幹及び両上下肢の機能障害が著しく、本学の個別学力検査において、「代筆解答」を必要とする者は、下記の期限にかかわらず大学入試センター試験出願以前のできるだけ早い時期に本学へ相談してください。

(1) 相談締切日

AO入試	平成27年10月 2日 (金)
推薦入試, 帰国子女入試, 私費外国人留学生入試	平成27年10月13日 (火)
一般入試	平成28年 1月20日 (水)

(2) 提出書類

① 事前相談書(次の事項及び連絡先について記載したもの。様式は問いません。)

- ア 志願者氏名
- イ 志望学域学類等及び受験予定の入試区分
- ウ 障がいの種類・程度
- エ 受験について配慮を希望する事項
- オ 修学について配慮を希望する事項
- カ 高等学校若しくは中等教育学校等でとられていた配慮
- キ 日常生活の状況
- ク その他参考となる事項

② 医師の診断書(上記ウ, エ, オ, キに関する項目も記載してください。)

③ 大学入試センター試験の「受験上の配慮事項審査結果通知書」又は「受験上の配慮事項決定通知書」の写し(大学入試センター試験を受験した者で、受験上の配慮を認められた者のみ)

④ その他参考書類(障害者手帳の写し等)

(3) 相談先

金沢大学学生部入試課入学試験係

住 所 〒920-1192 金沢市角間町
 電 話 076-264-5169,5177~5179 (平日午前9時から午後5時まで)
 F A X 076-234-4042
 E-mail boshu@adm.kanazawa-u.ac.jp

10 学生募集要項の請求方法等

1 学生募集要項の請求方法

(1) 金沢大学Webサイトからテレメールによる資料請求をする場合

金沢大学Webサイトから直接、テレメールによる資料請求ができます。
 詳しくは、金沢大学(入試情報)Webサイト
 (<http://www.kanazawa-u.ac.jp/education/admission/>)をご覧ください。

(2) テレメールで請求する場合(インターネット, 自動音声応答電話)

① インターネット(パソコン・スマートフォン・携帯電話)又は自動音声応答電話をご利用ください。



インターネット(パソコン・スマートフォン・携帯電話)の場合		自動音声応答電話の場合	
http://telemail.jp		IP 電話	050-8601-0101 (24時間受付) (一般電話回線からの通話料金は 日本全国どこからでも3分毎に約 12円です。)
バーコード			



② 資料請求番号（6桁）を入力又はプッシュしてください。

（スマートフォン・携帯電話でバーコードを読み取りアクセスした場合は、資料請求番号の入力は不要です。）

資料名	資料請求番号	料金（送料含む）
大学案内	563022	300円
入学者選抜要項	583022	215円
入学者選抜要項＋大学案内	563002	300円
一般入試学生募集要項	583002	300円
一般入試学生募集要項＋大学案内	543002	350円
推薦入試，帰国子女入試，私費外国人留学生入試 学生募集要項	583012	300円
推薦入試，帰国子女入試，私費外国人留学生入試 学生募集要項＋大学案内	543012	350円
A O入試学生募集要項	583032	180円
A O入試学生募集要項＋大学案内	543022	300円

③ ガイダンスに従ってお届け先を登録してください。

※ 資料請求終了時および受付確認メール内で告知される10桁の「受付番号」は、資料到着まで保管しておいてください。

※ 請求から2～3日後に資料が届きます。ただし、受付時間や地域、配達事情によっては4日以上かかる場合もあります。5日以上経っても届かない場合はテレメールカスタマーセンターまでお問い合わせください。なお、発送開始日以前の請求分は発送開始日に一斉に発送されます。

※ 料金はお届けする資料に同封の料金支払い用紙をご確認の上、お支払いください。なお、支払い手数料が別途必要になります。（ケータイ払いは50円。クレジットカード払いは50円。コンビニ払いは86円。ゆうちょ銀行・郵便局のATM扱いは80円、窓口扱いは130円。複数資料の料金をまとめて支払うこともできます。）

※ 自動音声応答電話によるご請求の場合、住所、名前の登録時は、ゆっくりはっきりとお話してください。登録された音声不鮮明な場合は資料をお届けできないことがあります。

→ (1), (2) の請求方法についてのお問い合わせ先

テレメールカスタマーセンター IP電話 050-8601-0102（午前9時30分から午後6時まで）

(3) 大学へ直接請求する場合

郵送を希望する場合は、受信者の郵便番号、住所、氏名を明記し郵便切手を貼付した返信用封筒（角形2号約33cm×約24cm）を同封の上、封筒の表に「〇〇請求」と朱書し、請求してください。（郵送を希望する資料名及び送料（郵便切手）は上記(2)－②を参照してください。）

2 学生募集要項の発表・配付予定時期

募集要項名	発表予定	配付予定
一般入試	平成27年10月下旬	平成27年11月上旬
推薦入試	平成27年9月下旬	平成27年9月下旬
帰国子女入試		
私費外国人留学生入試	平成27年7月中旬	平成27年7月中旬
A O入試		

3 問い合わせ先

電話での問い合わせは、平日（月曜日～金曜日）午前9時から午後5時の間でお願いします。

(1) 入学試験関係

入学試験に関する問い合わせは、下記へ行ってください。

学生部入試課入学試験係	〒920-1192 金沢市角間町	電話 076-264-5169, 5177～5179 E-mail boshu@adm.kanazawa-u.ac.jp	FAX 076-234-4042
-------------	---------------------	---	------------------

(2) 修学関係

入学後の授業あるいは学生生活に関する問い合わせは、下記へ行ってください。

志望学域・学類		問い合わせ先		
人間社会学域	人文学類	人間社会系事務部 学生課人文・国際学務係	〒920-1192 金沢市角間町	電話 076-264-5601
	法学類	人間社会系事務部 学生課法・経済学務係		電話 076-264-5456 5457
	経済学類			
	学校教育学類	人間社会系事務部 学生課教育・地域学務係		電話 076-264-5603
	地域創造学類			
	国際学類	人間社会系事務部 学生課人文・国際学務係		電話 076-264-5455
理工学域	数物科学類	理工系事務部 学生課教務係	〒920-1192 金沢市角間町	電話 076-234-6831
	物質化学類			
	機械工学類			
	電子情報学類			
	環境デザイン学類			
	自然システム学類			
医薬保健学域	医学類	医薬保健系事務部 学生課医学学務係	〒920-8640 金沢市宝町13番1号	電話 076-265-2125 ～2127
	薬学類	医薬保健系事務部 薬学・がん研 支援課薬学学務係	〒920-1192 金沢市角間町	電話 076-234-6827 6828
	創薬科学類			
	保健学類	医薬保健系事務部 学生課保健学務係	〒920-0942 金沢市小立野5丁目11番80号	電話 076-265-2514 ～2517

※ 金沢大学携帯サイト

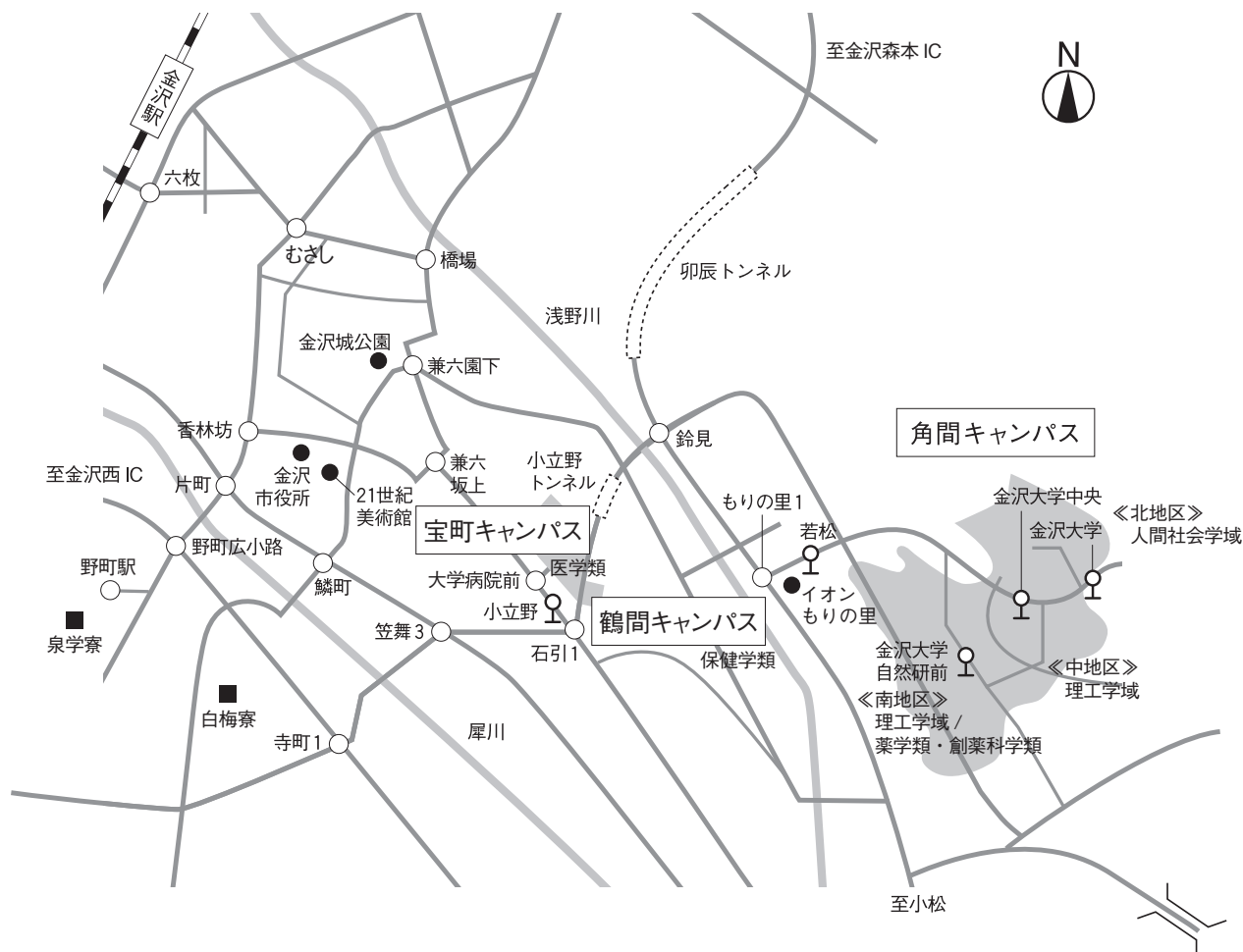
オープンキャンパス情報、各種入試情報などを携帯電話から閲覧できます。

以下のバーコードにアクセスしてください。



<http://daigakuic.jp/kanazawa-u/>

4 金沢大学所在地略図



キャンパス名		学 域 等	交 通 機 関
①	か く ま ま ち	事務局（学生部） 理工学域 医薬保健学域（薬学類・創薬科学類）	JR金沢駅兼六園口（東口）バスターミナルから北陸鉄道バス 「金沢大学」行き乗車 「金沢大学自然研前」下車 (JR金沢駅から約35分)
		人間社会学域	JR金沢駅兼六園口（東口）バスターミナルから北陸鉄道バス 「金沢大学」行き乗車 「金沢大学」終点下車 (JR金沢駅から約40分)
②	た か ら ま ち	医薬保健学域 (医学類)	JR金沢駅兼六園口（東口）又は金沢港口（西口）バスターミナルから北陸鉄道バス
③	つ る ま ま ち	医薬保健学域 (保健学類)	「湯涌温泉」「東部車庫（橋場町経由）」「北陸大学」「金沢学院大学（橋場町経由）」行きのいずれかに乗車 「小立野」又は「大学病院前」下車 (JR金沢駅から約20分)

(注) 乗り場のあるバスターミナルを事前に確認した上で、利用してください。



KANAZAWA UNIVERSITY

この要項を希望される方は、以下のバーコードにアクセスしてください。



金沢大学学生部入試課入学試験係

〒920-1192 金沢市角間町
TEL 076-264-5169,5177~5179
URL <http://www.kanazawa-u.ac.jp>

